

ともはは8

僕の真夏



基本CG50枚



下着あさりから始まる

ほいんち

箱舟



木自白

ひよんなことからはじめた
ドカタおばさんの下着あさり

罪悪感を抱えつつ
僕は高野さんの洗面の巾着性から
離れられなくなっでしまった

うんうん
うんうん



高野さんの洗面巾着性から
一番の目的は

「僕真夏さんの下着で毎日オナニーしてるよ」

「え？」

「じゃあお前……」

バレても息子の友達を警察に突き出すわけにもいかずずるずると肉体関係へ



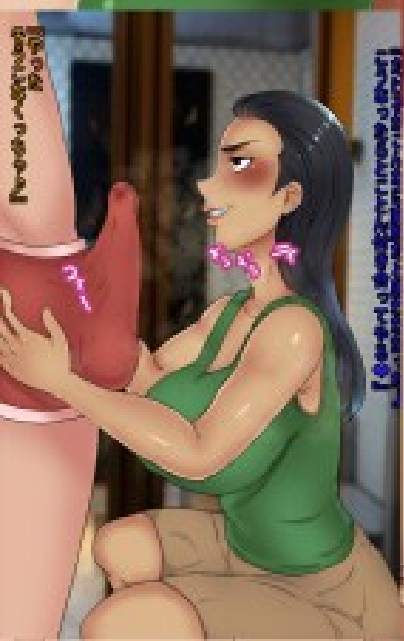
「……」



「……」



「……」



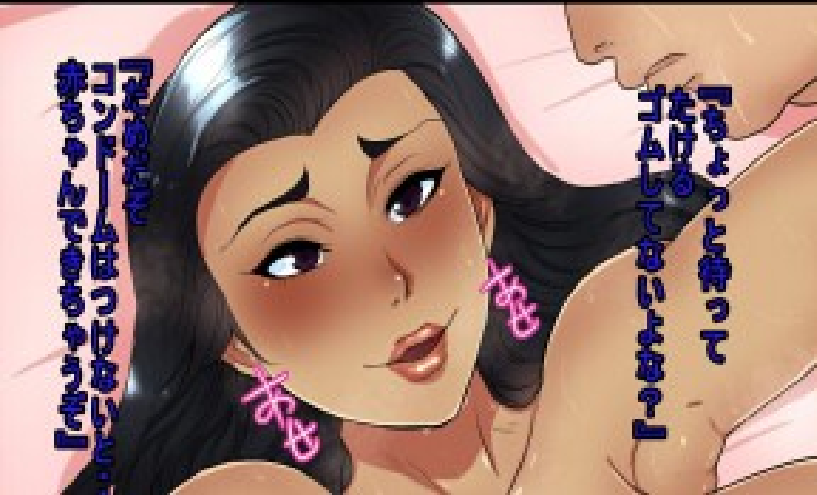
「……」



「おっぱいも熱いよー」
「あーっ」

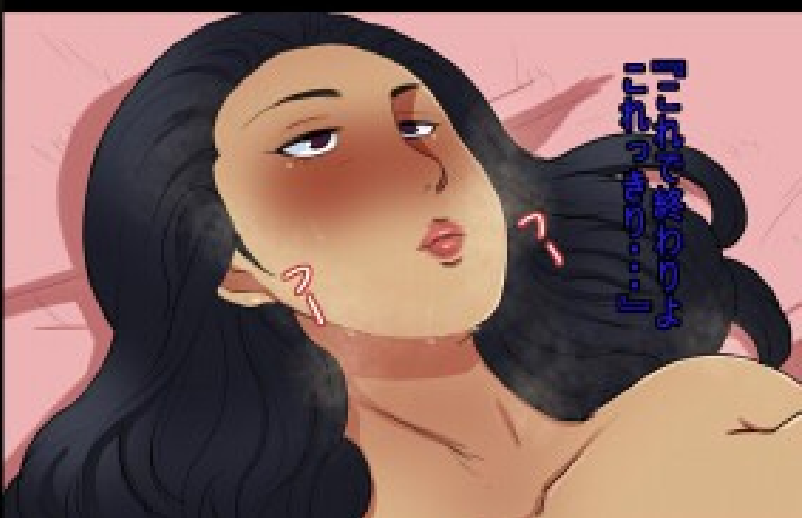


「おっぱいも熱いよー」
「あーっ」



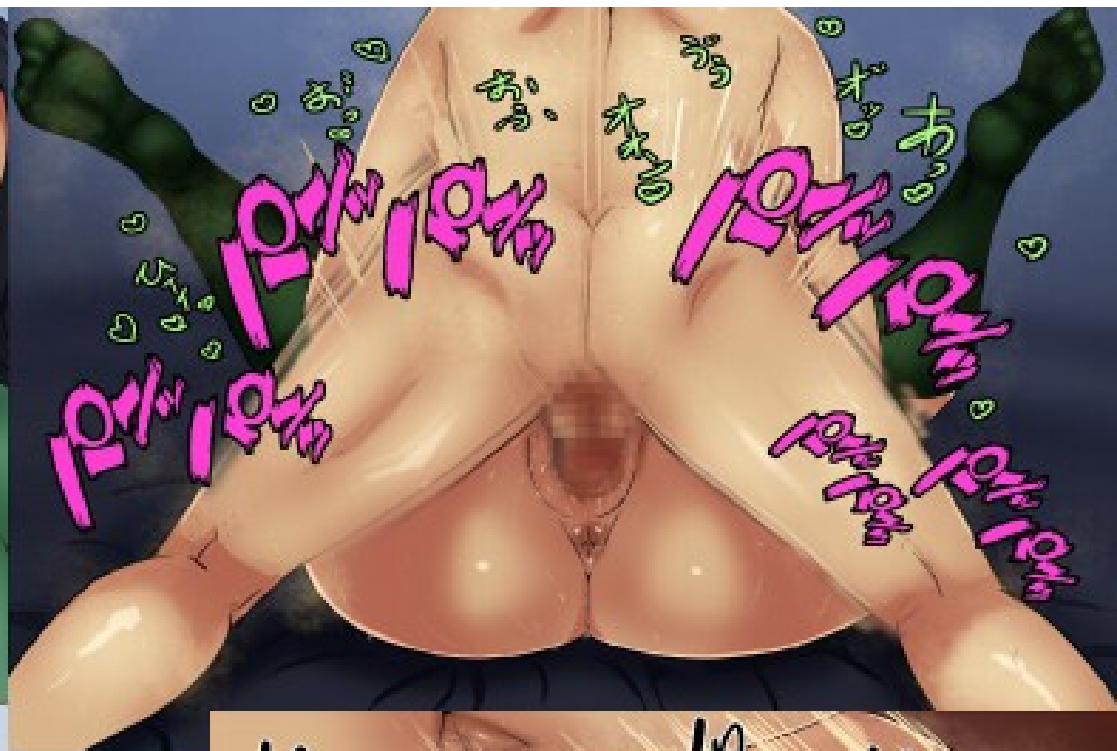
「おっぱいも熱いよー」
「あーっ」

「おっぱいも熱いよー」
「あーっ」



真夏の夜のやさしさか
僕を愛してるのかはわからないけど
僕を受け入れてくれた

毎日セックスした
もちろん避妊具など一度もつけないことなどなく



「たける、
だいじょうぶか？」

オロオロ

「はい、はい真夏さん
大丈夫です」

この人は僕の友達のお母さん
彩木真夏さん

ニラ

女性だけど肉体労働のベテランで
大学の夏休み中の僕に
この仕事を紹介してくれた

体が弱くて運動不足の僕には
ちようどいい機会であ
りありがたい話だった

ド
シ
リ

「一か月頑張ったし今日飲みに行くか？
私のおごりだよ♡」

『ほんとに？ありがとう』



というのは建前で



休憩中の
誰もいないこの時間



わちゃっ

僕の今の目課は

うんっ

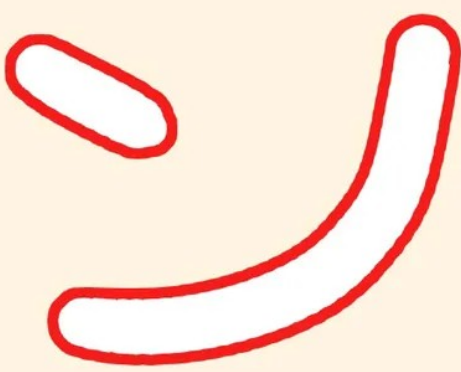
真夏さんの着替えをあさることが
一番の目的だ

おわ

さっきまで着ていた
汗と体臭が染みついた衣類…

お

「れ」「れ」「の」のパンティー



罪悪感を抱えつつ
僕は真夏さんの体臭の中毒性から
離れられなくなってしまうた



さっきまで話していた人を包んでいた衣類
そこから放たれる異臭とのギャップ性に
自身最高峰の勃起がとっまらなくなっていた

真夏さんが脱ぎ捨てたこれは
いわば、クロス、『聖衣』

この匂い 興奮度
煙草もギャンブルも麻薬なんて目じゃない
抜け出せない輪廻のカルマ

自分の業がどこまでも膨らんでいくのが
日々抑えられなくなってしまうた

グィン





『んん、うん、うん、うん！』

グィ



真夏さんの聖衣でオナると信じられない量の精子が出る

むしろ家でオナニーをすることがなくなった
この時のために精子を貯めるのが家での作業になった



『たけるお待たせー
まったか？ごめんな』

『おばさん 大丈夫だよ
僕もさっき来たところだから』



二時間後

『たける〜こんなおばさんと一緒に
わるいな〜若い女のことのが楽しいよなあ?』

『いや…:す〜く楽しいよ
おばさんと一緒に働けて飲めて』

プハァ〜

『嬉し〜い〜叫び〜て〜くれる〜ちゃん〜』

僕は酔いが回り真夏さんへの
思いにブレーキが利かなくなってしまうた



『むしろ真夏さんと一緒以外
考えられないよ』

『なんだよそれ(笑)』

あせ

『好きなんです
真夏さんの「こ」が』

『僕が小さいころ離婚して
今独り身でしよ？
僕じゃダメかな……？』

びっぴん！！

『何言ってるんだよ
おばさんからからかっても
面白くないよ』

『本気だよ』

『僕真夏さんの下着で毎日
オナニーしてるよ』

『え？』

『ごめんね……
本当に真夏さんが女性として好きなんだ
でもこんなこと悪いと思って……もうしないから
警察にも突き出してもいいよ』



「ったく、ぶっついで
おかしいと思っただよ……」

「息子の友達を
警察に突き出せるわけ
ないだろ……」



まさかの流れでホテルに来てしまった
一回だけセックスさせるから
真夏さんのことは忘れるという約束で





『若いってすごいね
ガチがちだいきり立ってるじゃない』

『こんなに硬くなってるのは
真夏さんだからだよ』

『せめなよまん...♡』

まんまんでもないような気が...

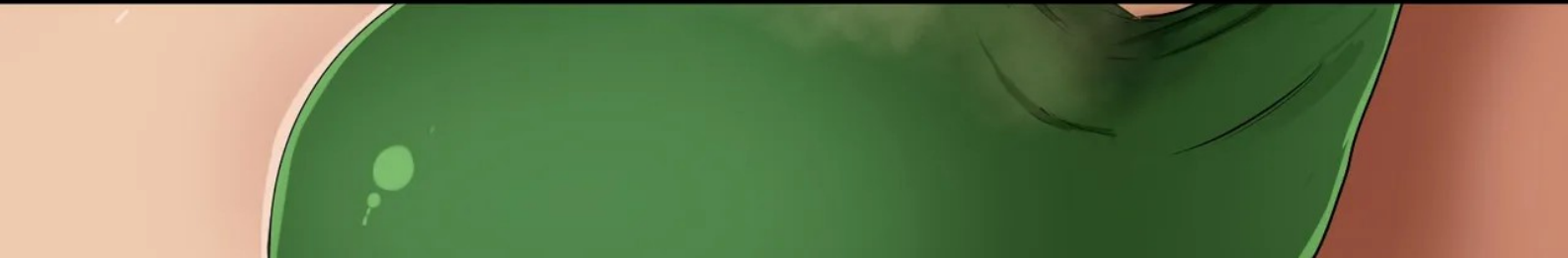
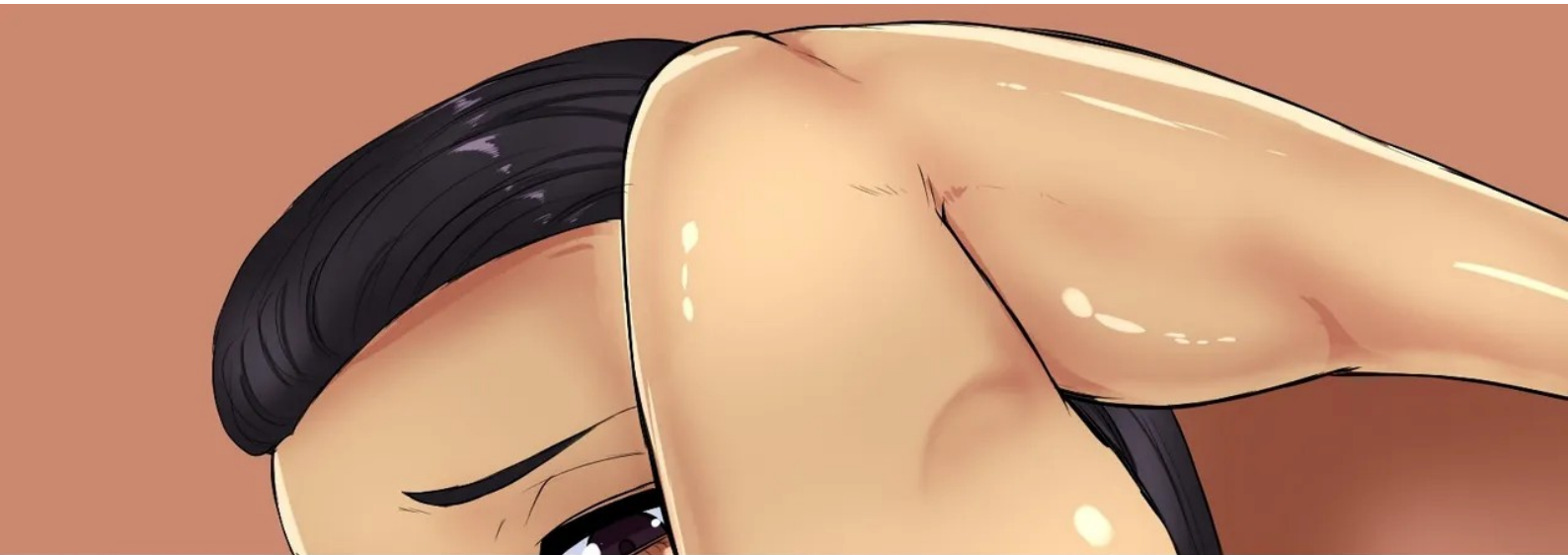
「ちよつとだけけるーやめなよ
そんなとろろ
汗かいてるから…」

「それがいいんだよ
この臭いのがたまらないんだ」

ん、ん
ん、ん

ス、ス





『「んなぜんぎ初めてだよ♡」』

はあ...

はあ...



『おぼろごをその氣にされるなんてっ♡』
...っせ



あは

あは



あは

「たけるがこんなに変態だと思わなかったよ
「こうなったらとんとん付き合ってたよ」❤️」

「やった
そう」なくっちゃ」



『すっっ♡一緒に風呂入ったときは小指みたいだったのに
こんなに立派なもん携えてたんだねえ♡』

ギョインム

ギョイン

『いただきまーす♡』



『あっすいパキューム』



『真夏さんの…
口の中に吐すよ…!』





アッ

アッ

ビュッビュッ



『ほらお待ちかねのオマン』だよ♡
たけるの好きだよ♡♡

？
？

OT

OT









『すい〜い〜れ...
気持ちいいところまで当たってる♡♡♡』

よしよし

よしよし



おっ... 可愛い♡

おっ!!



「真夏さんの……まんこ」
気持ちいい！」



「ちよっと待って
たける
ゴムしてないよな？」

「だめだぞ
コンドームはつけないと……
赤ちゃんできちゃうぞ」

『子供出来てもいい！
僕が責任持つから……
真夏のマンコに中出ししたい……！』

はぁ

はぁ

『うう……♡
そんな目で
見ないでくれ……♡』

キッ

キッ



『イック……♡』

『あぁぁぁん♡』



『真夏さんとのセックス最高でした』

『……』

トッポ

トッポ



『これで終わりよ
これっきり……』

っっ

っっ

数日後

真夏さんは一回きりといったが一回結んだ肉体関係をそう簡単にあきらめることはできず



『真夏さん今日うち来てよ』

!!!

『だ、駄目だよ』

一回きりって約束したろ？

もうたけるとはしないって…』

最初こそ　そういう体を見せたが
真夏さんは口で言うほど
僕とセックスすることを拒まなかった

『一回きりなんてさみしい』と言わないでくださいよ！
一生真夏さんは僕のモノです♡』





パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

パ
ン
ツ

『わかった…
もう拒んだりしないから
いっぱい突いてくれえら♡』

真夏さんのやさしさか
僕を愛してるのかはわからないけど
僕を受け入れてくれた


毎日セックスした
もちろん避妊具など一度もつけることなく



僕と関係を持ってから 恥ずかしいのか真夏さんは
清潔感を出してくるようになった

なので抜き打ちで
下着検査をするようになった





『真夏さん見てよ
クロツチの部分おしっことおりものが
混ざってすごいにおいだよ』

『やめてくれよ…
ほんとに恥ずかしいから
好きな人にこんな汚いところ見られたくないよ…♡』

死ぬほどうれしかった



『ムレムレ激臭オマンコ♡』

『僕専用のオマンコトンネル♡』

クンパ
アアア

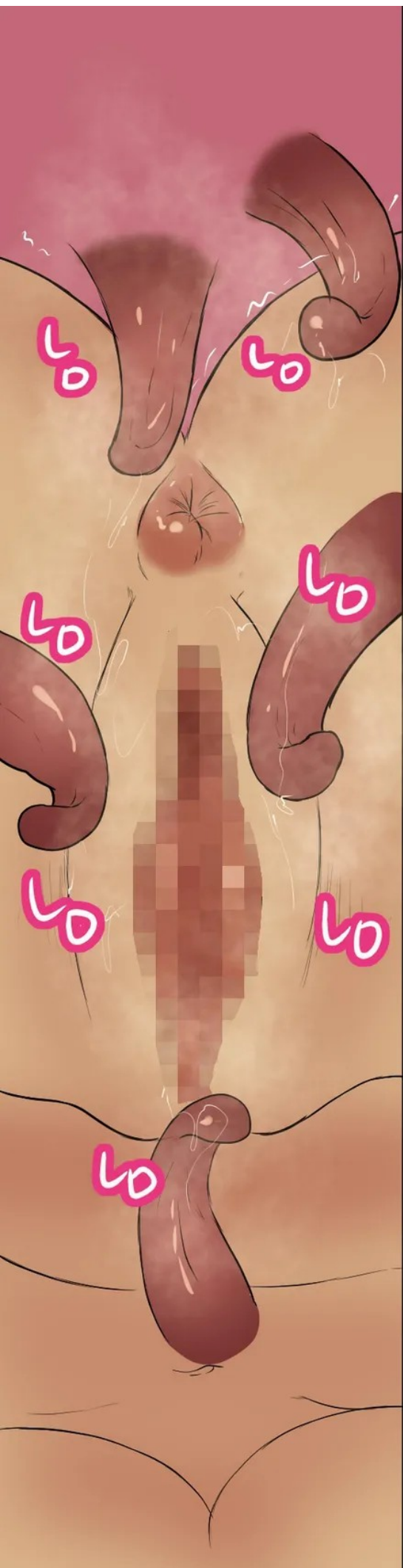


「……おめい……」
おめい

「おりもりのマン」
僕がきれいにしてあげるね♡」

アサ

アサ



『うっっ♡やばいって
きもちいい♡こんな男初めてだよ
ふっつはみんな嫌がるのに♡』



『お返しだよッ♥』

『うおおおっ
金玉舐めやばいよ♥』

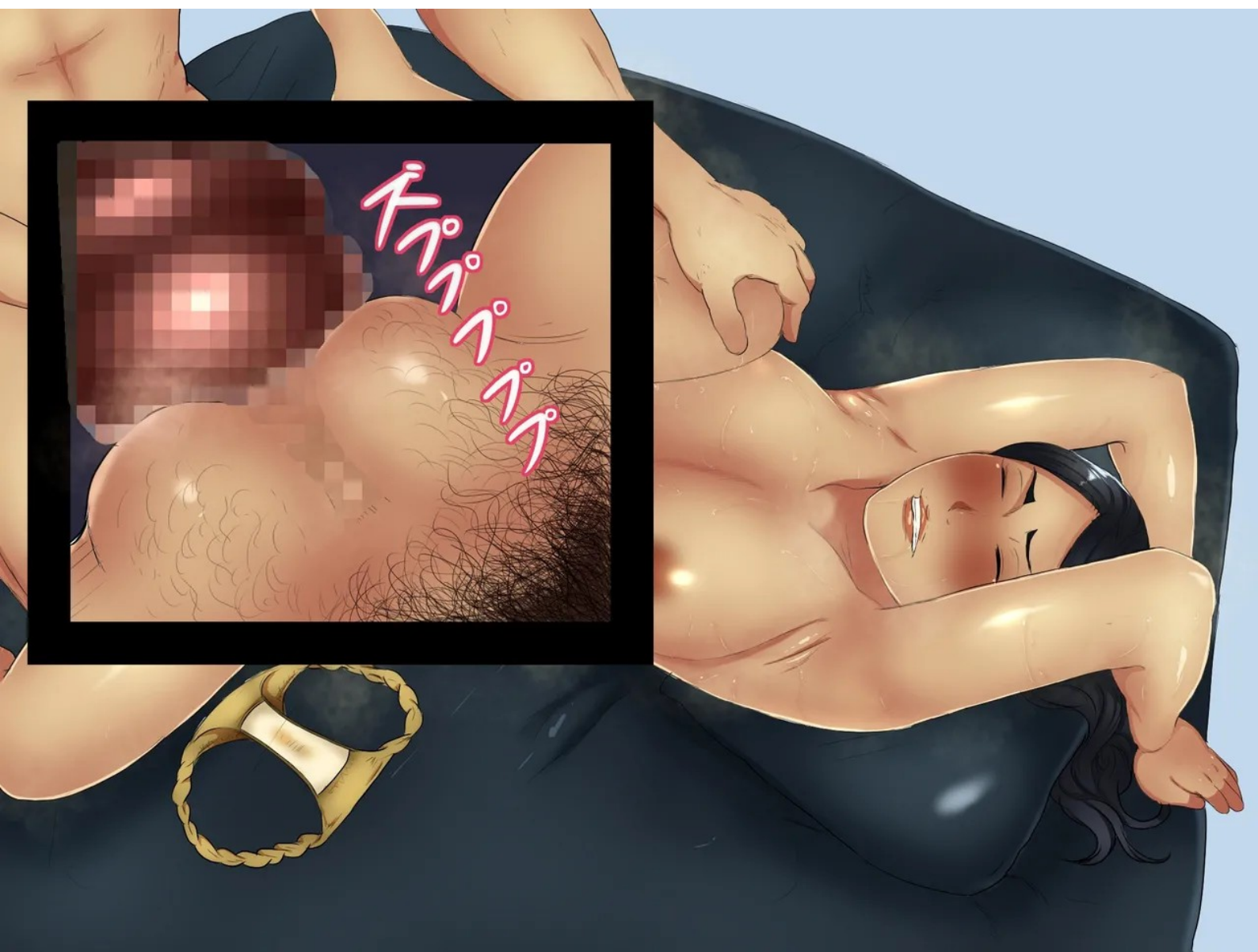
KUN
KUN
KUN
KUN
KUN
KUN
KUN
KUN



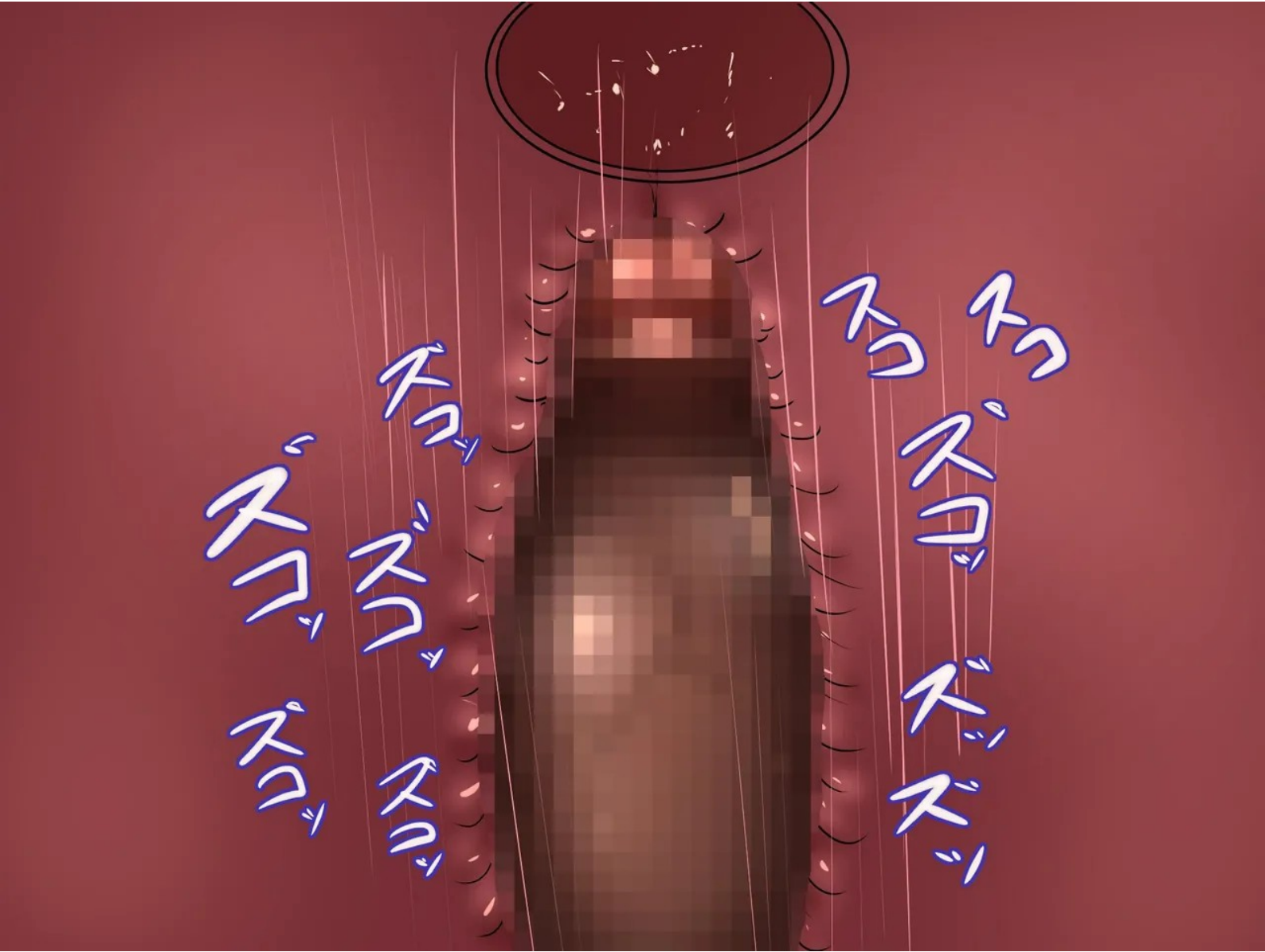
『今日もゴムなしで行くよ♡』

『いちいち言わなくていいから早く来なよ♡』





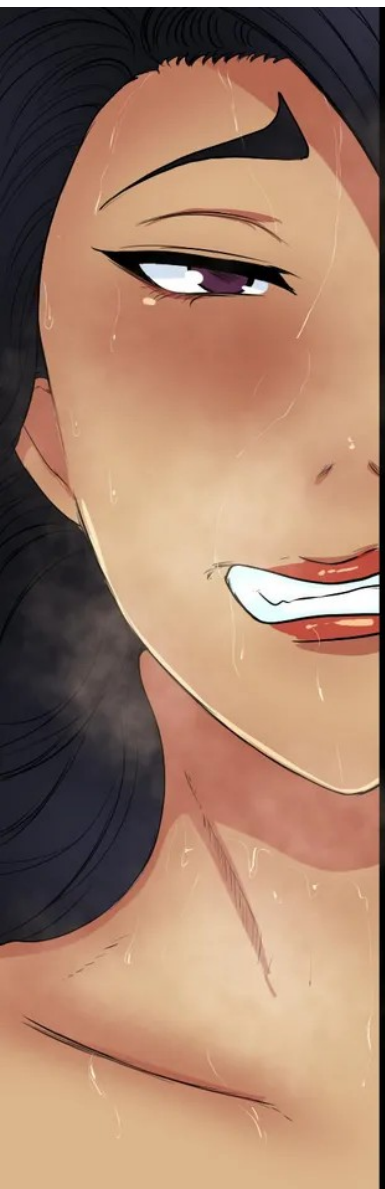






「真夏さん 妊娠してよ
僕の子生んでほしいんだ」

「いいよ♡たけるの子
生むからいっぱい精子
中に詰めて♡」



『キラ イクッー!』

キラキラキラ

キラキラ!!!

『キラキラキラキラ』

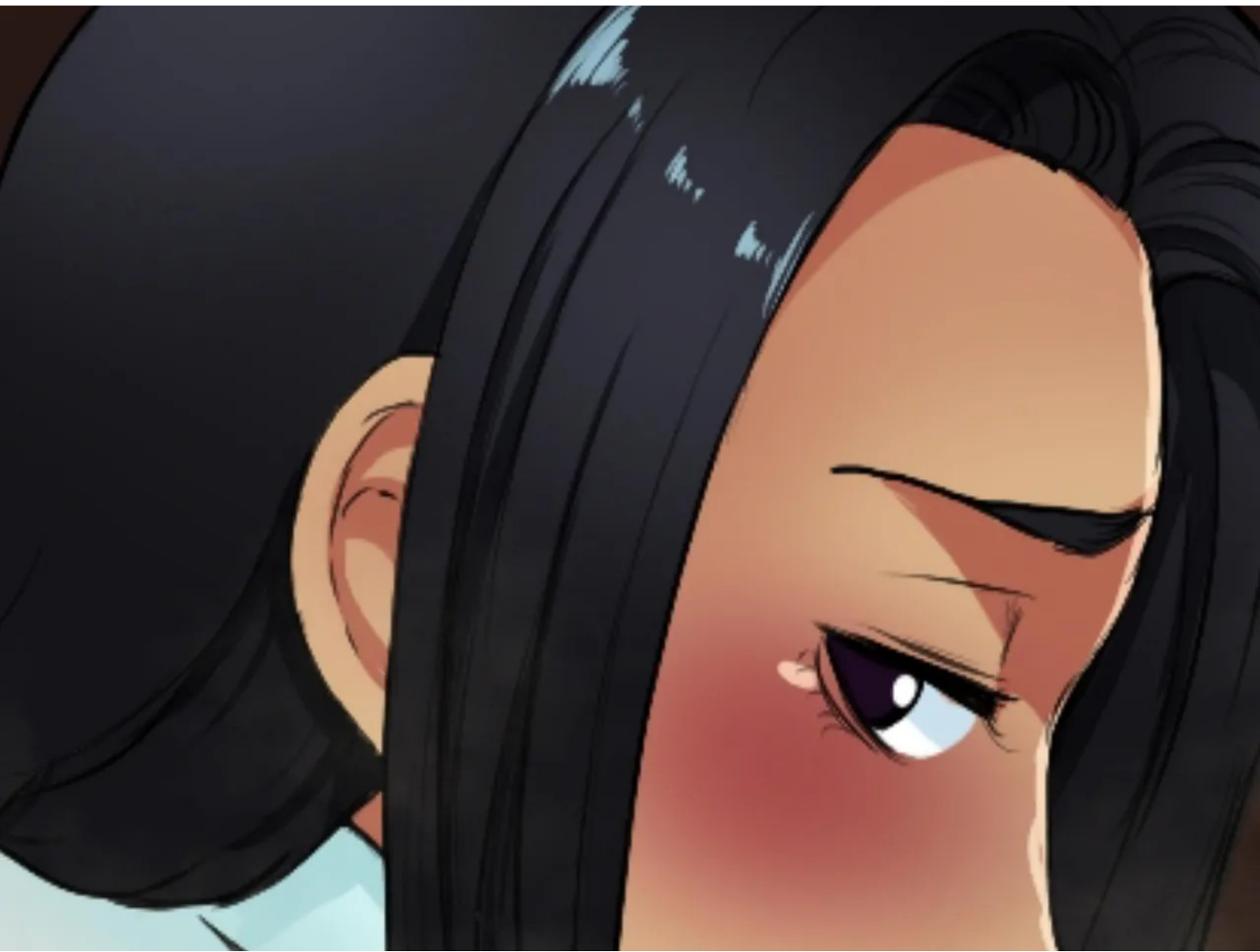


まだまだこんなもんじゃないだろ
子宮をたけるのザーメンでいっぱいにしてくれ♡

『もちろんですよ』

グッグッ

グググ



『おじゃまします
僕ゆうとくんの友達のたけるって言います』



『おじゃまします』

『うちの子と仲良くしてくれて
ありがとうね♪
いつでも遊びに来ていいからねー!』

ニク

『は、はい』





そこにあっただのは母親の顔はなく
快樂に身をゆだねる
女に顔だった

はぁ

はぁ

はぁ

♡

♡

♡

この恍惚の表情を見て
僕はいつそう ちんぽを
この人に捧げようと思った

完



ド
ミ
ス







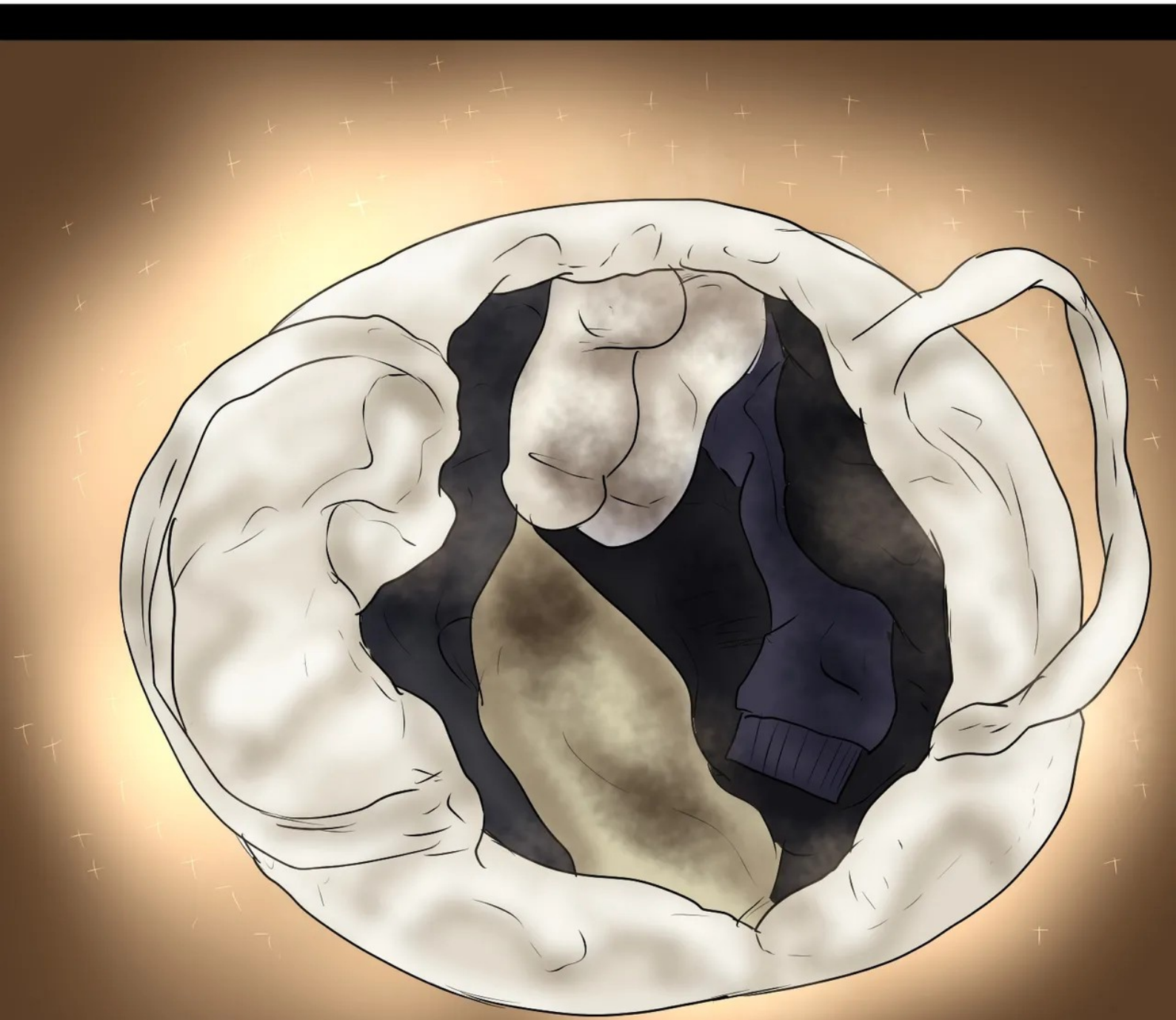
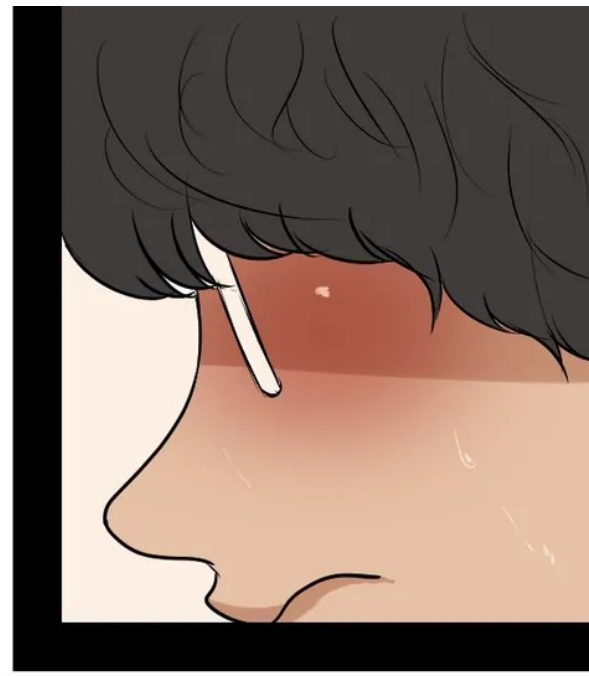
オロオロ

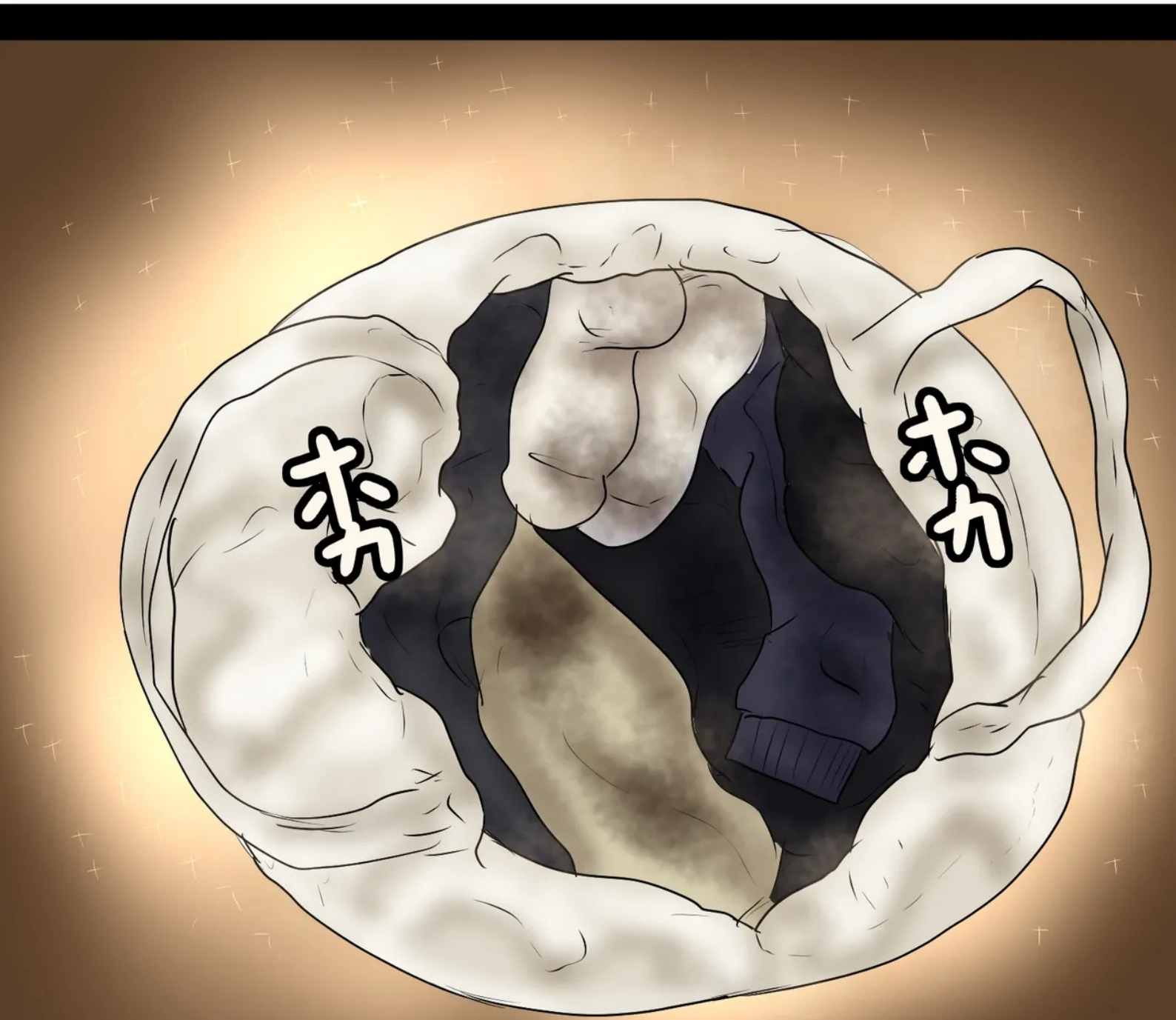
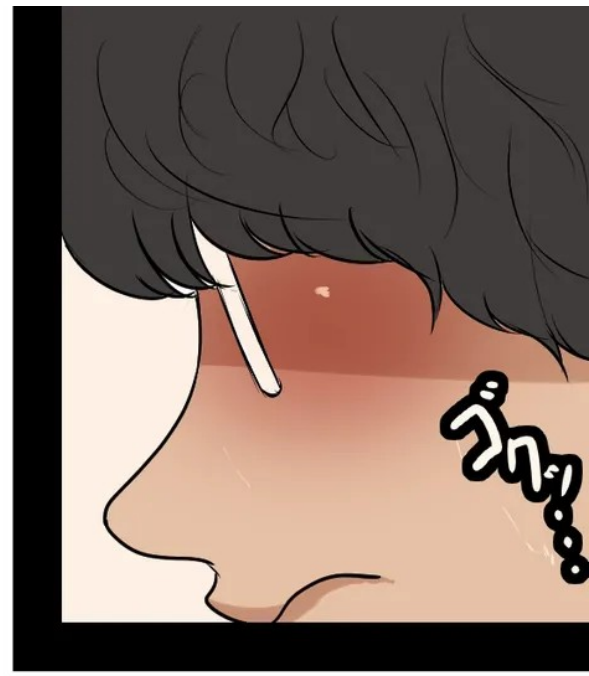


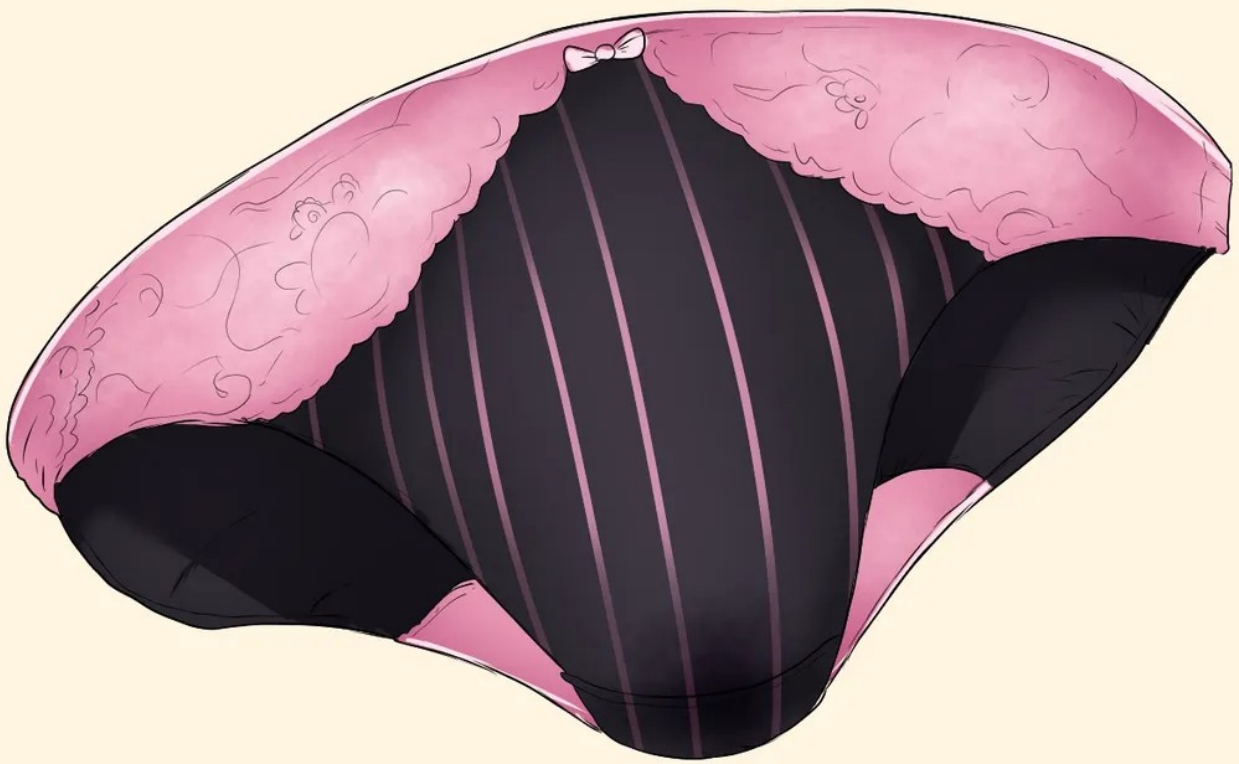
ニク

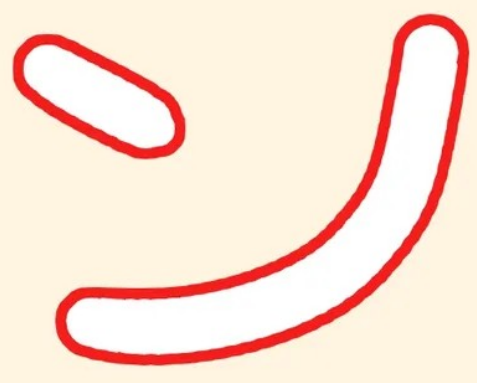
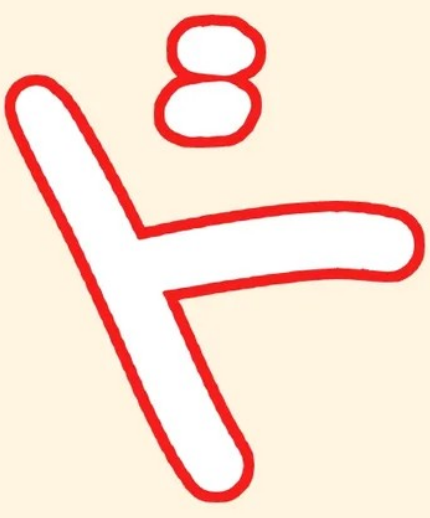
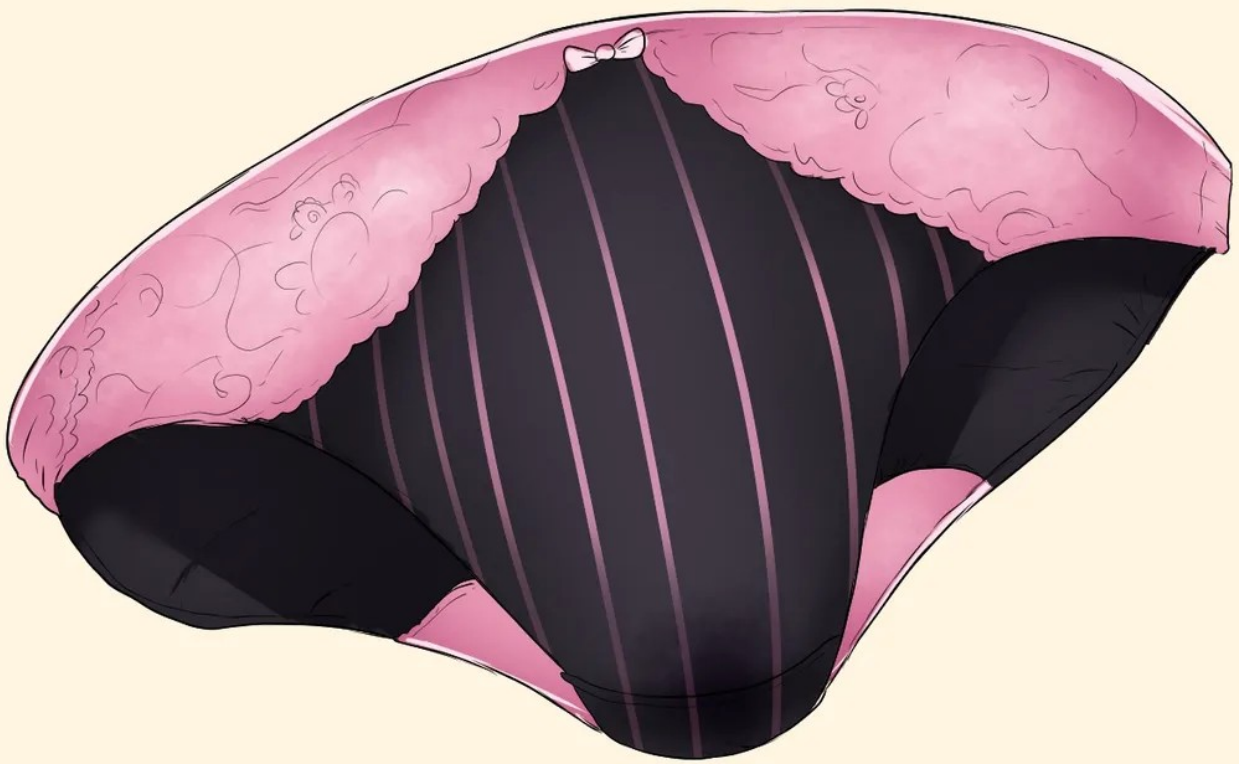




















ギン



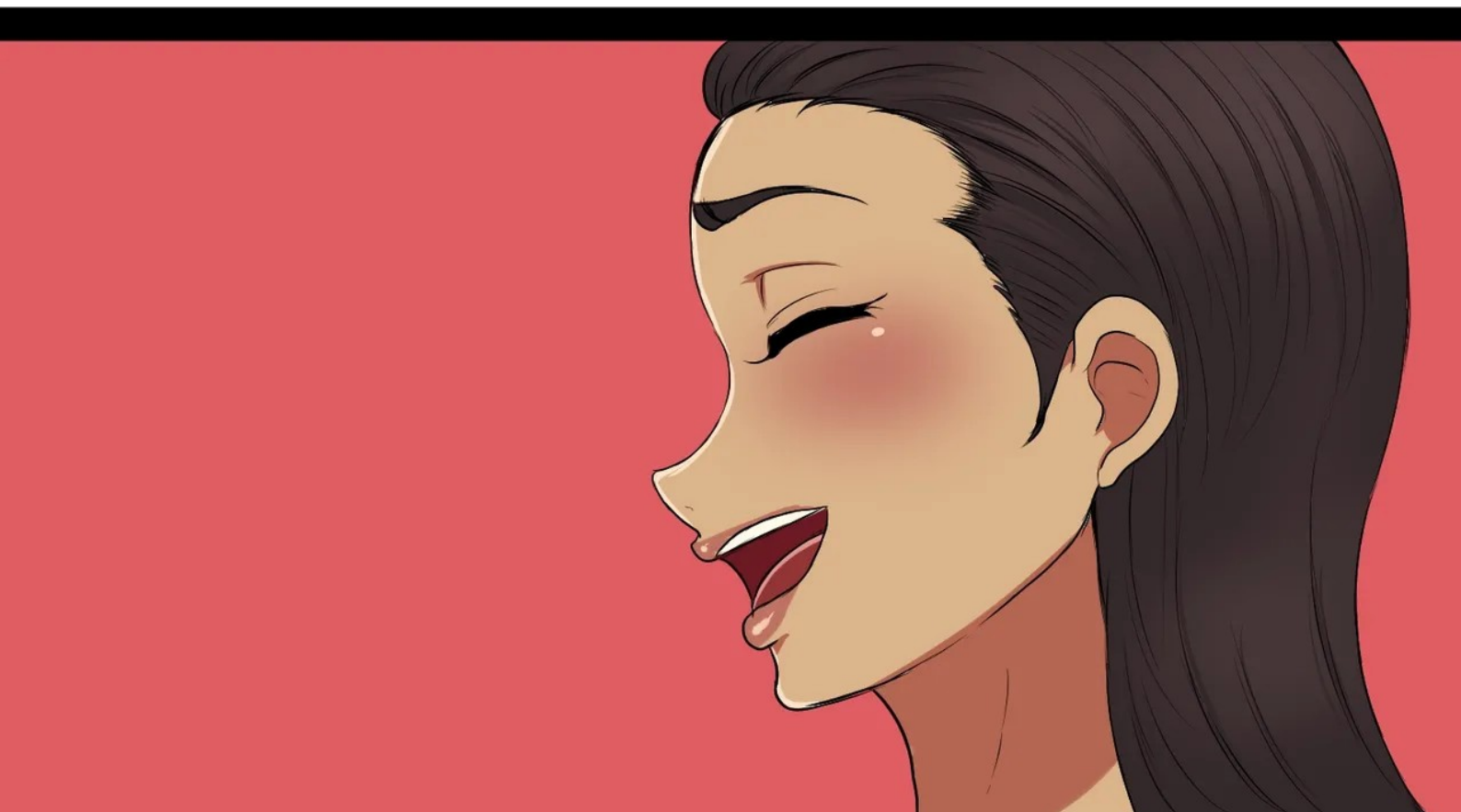
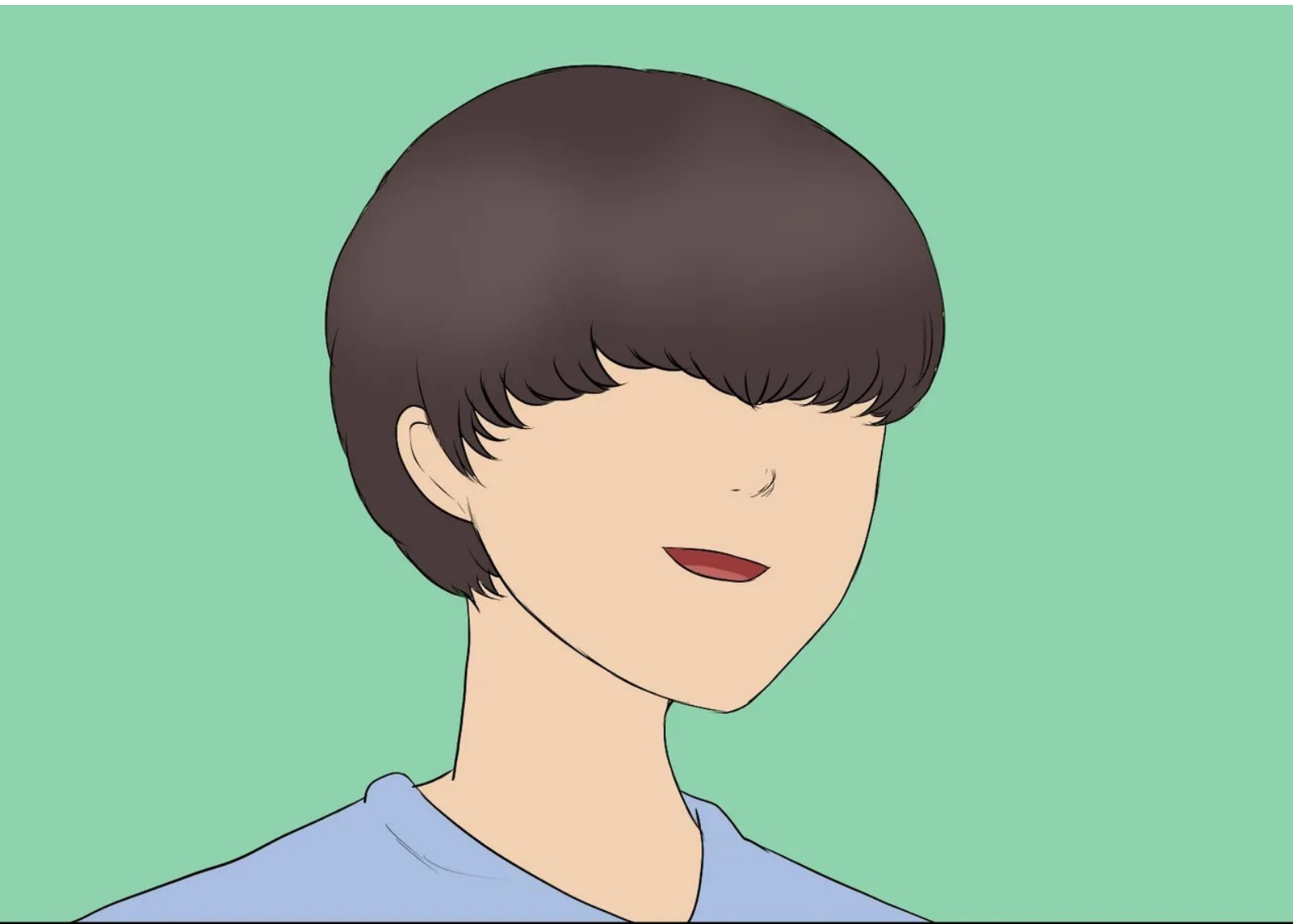


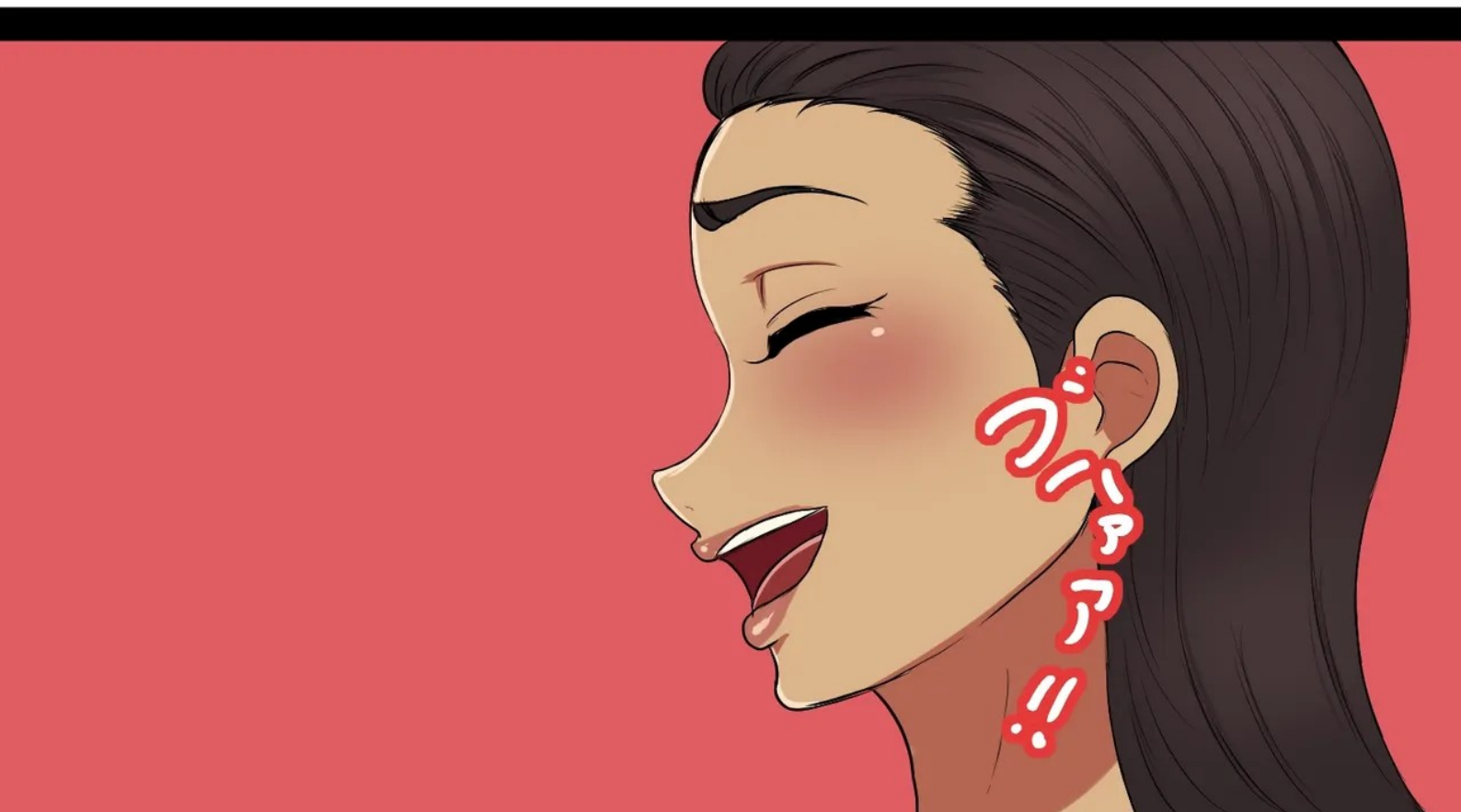
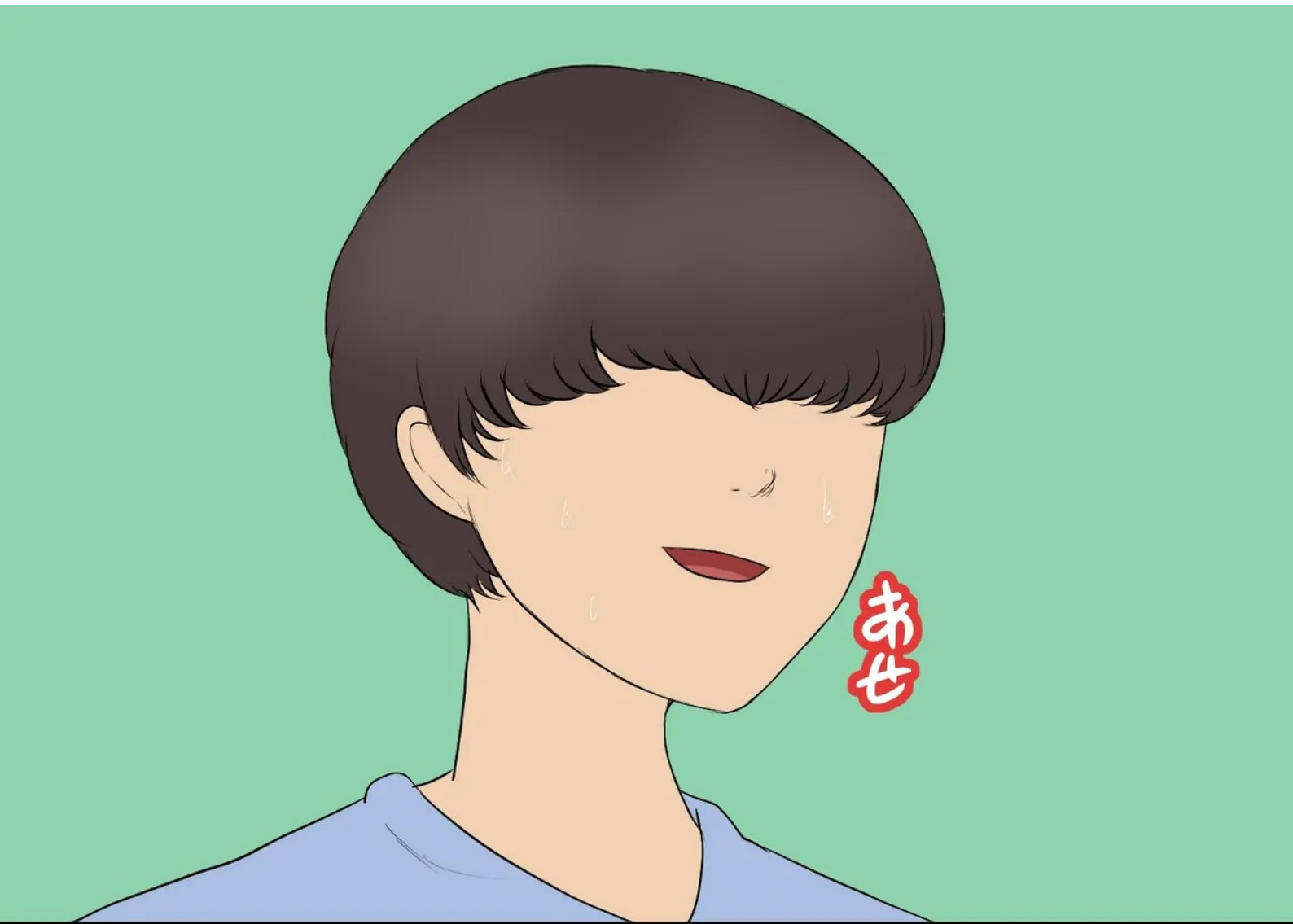




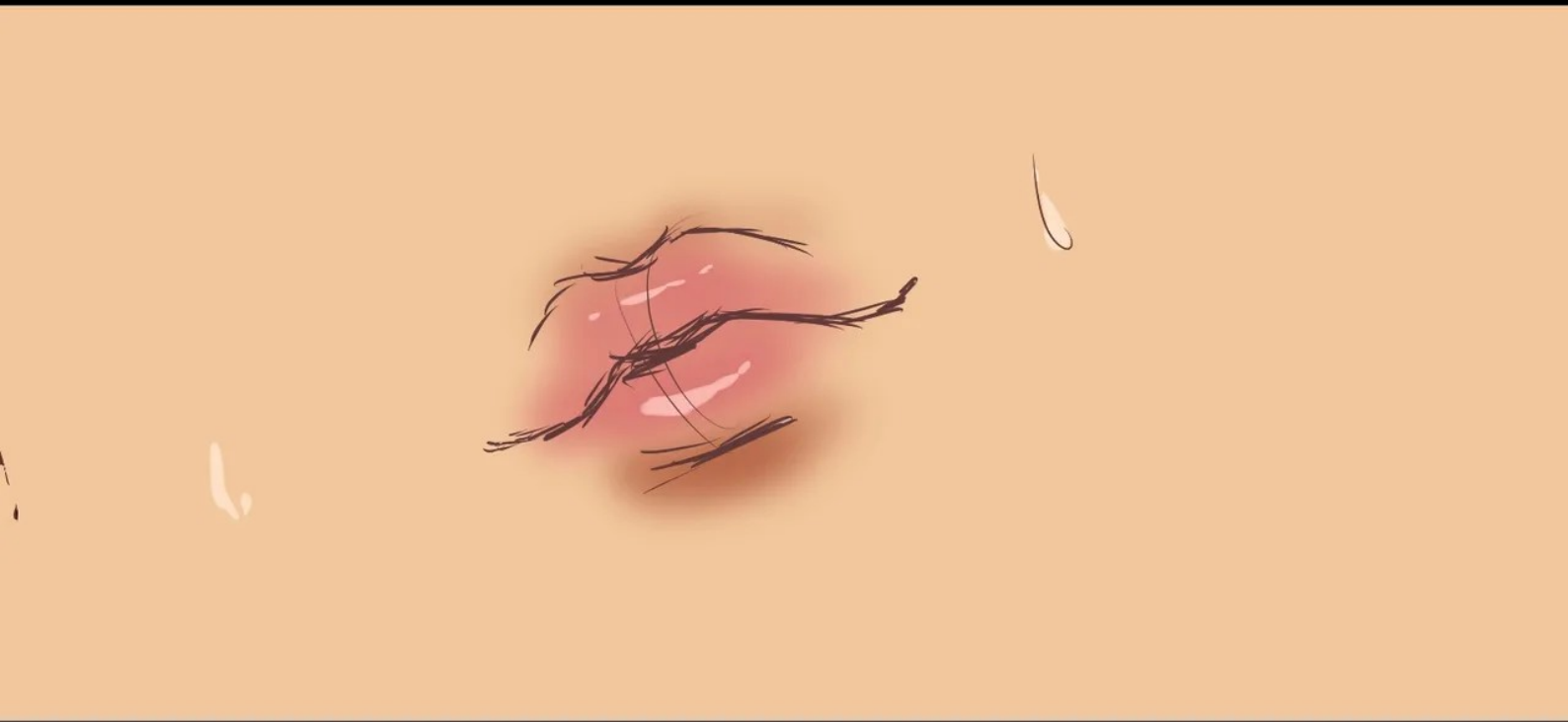
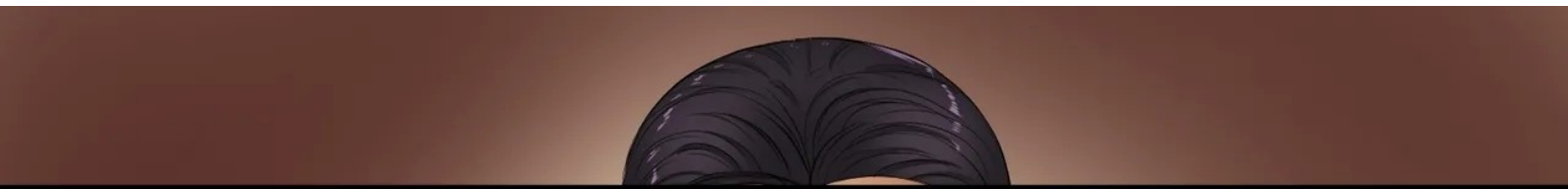




















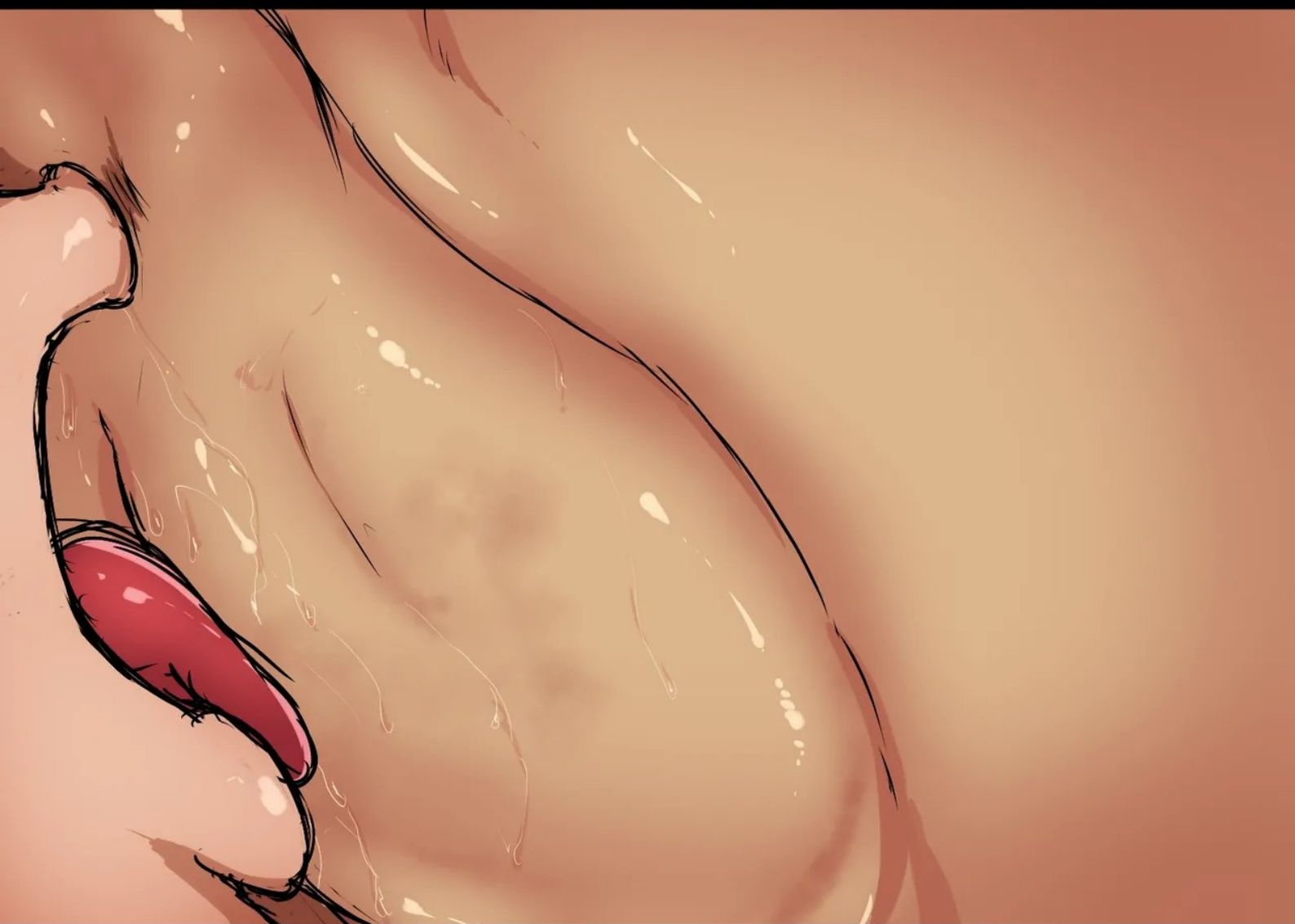
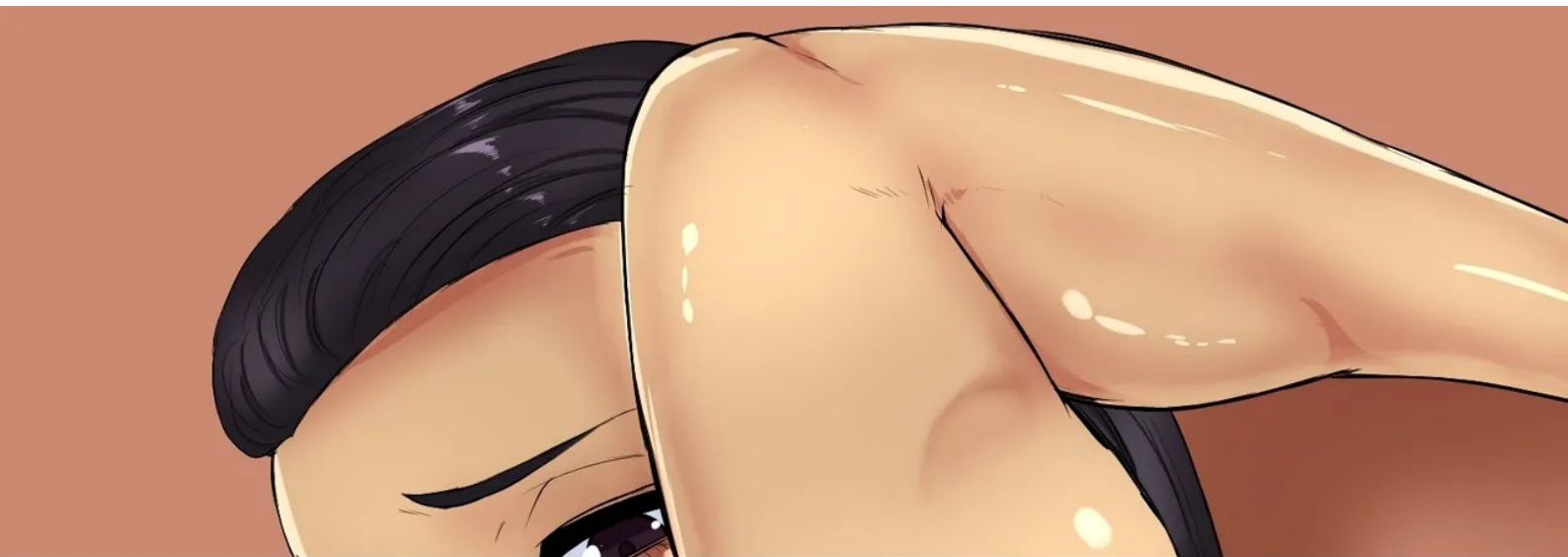


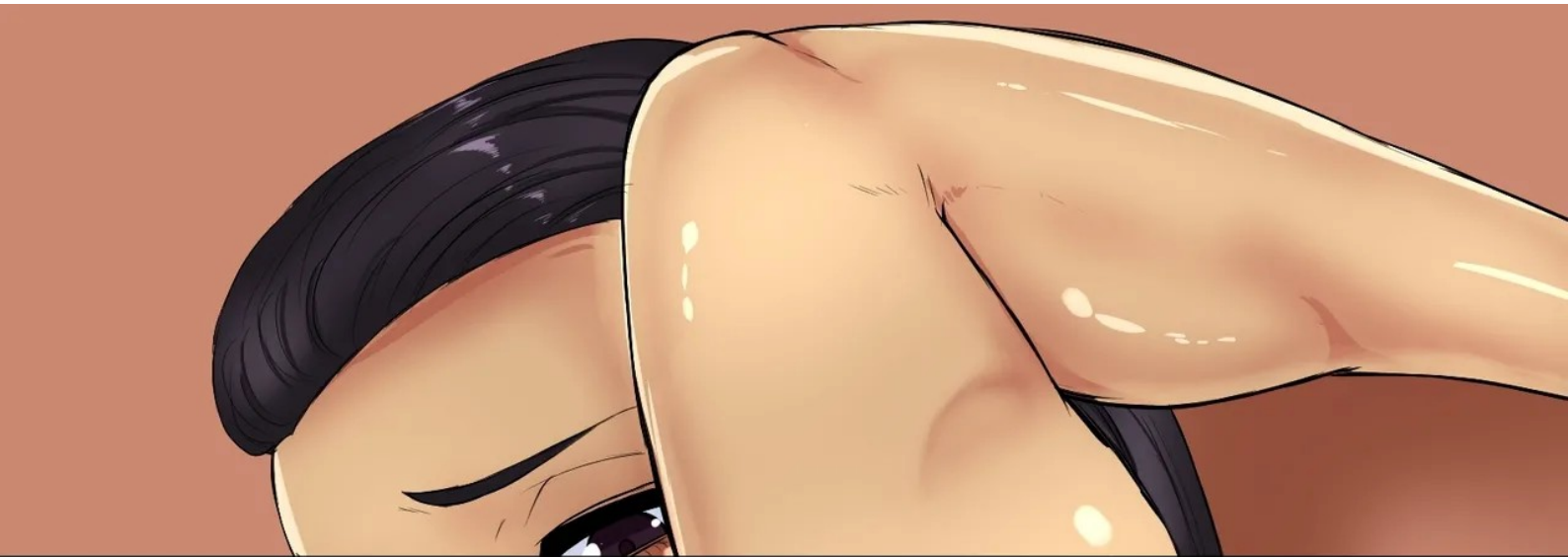




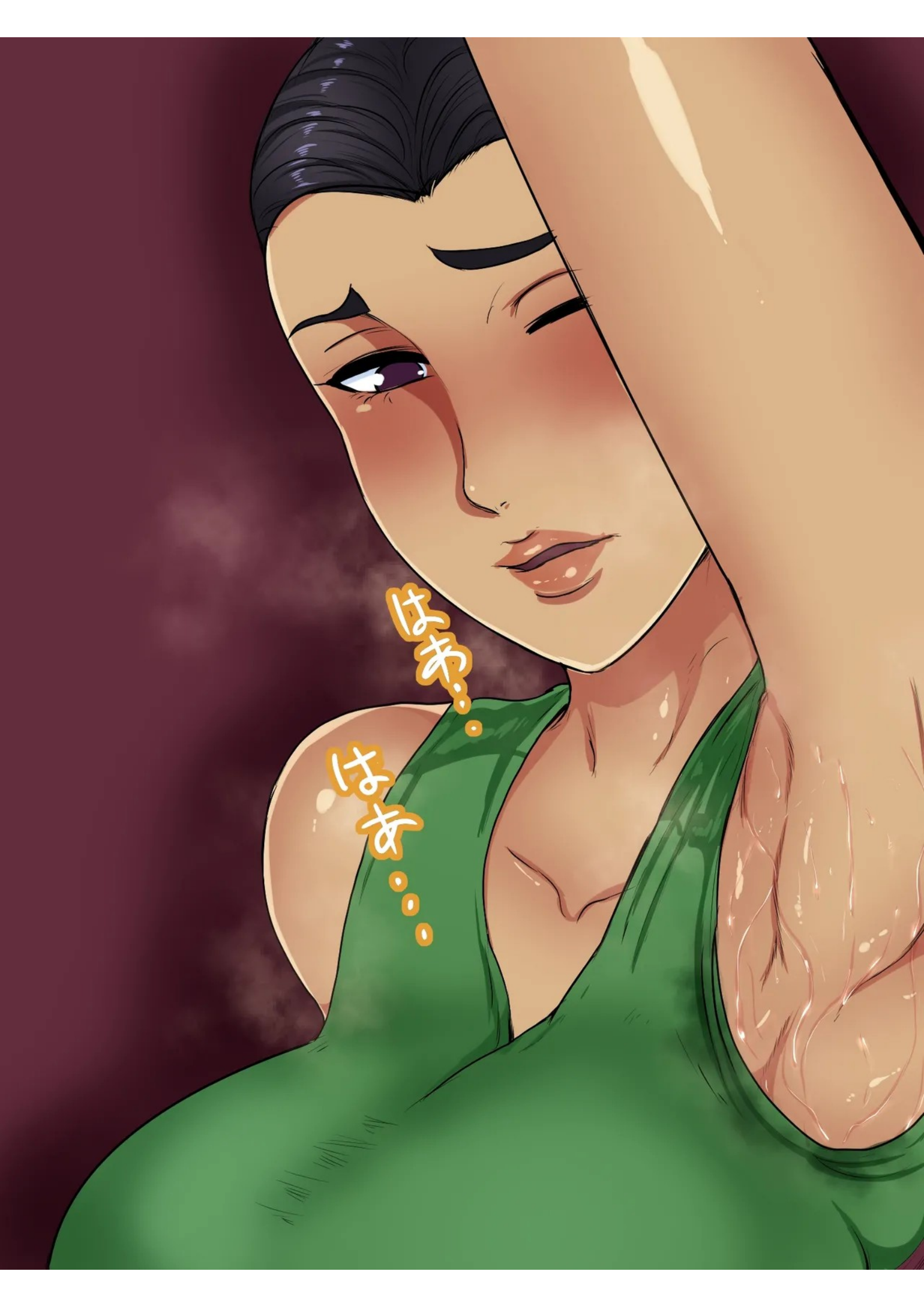






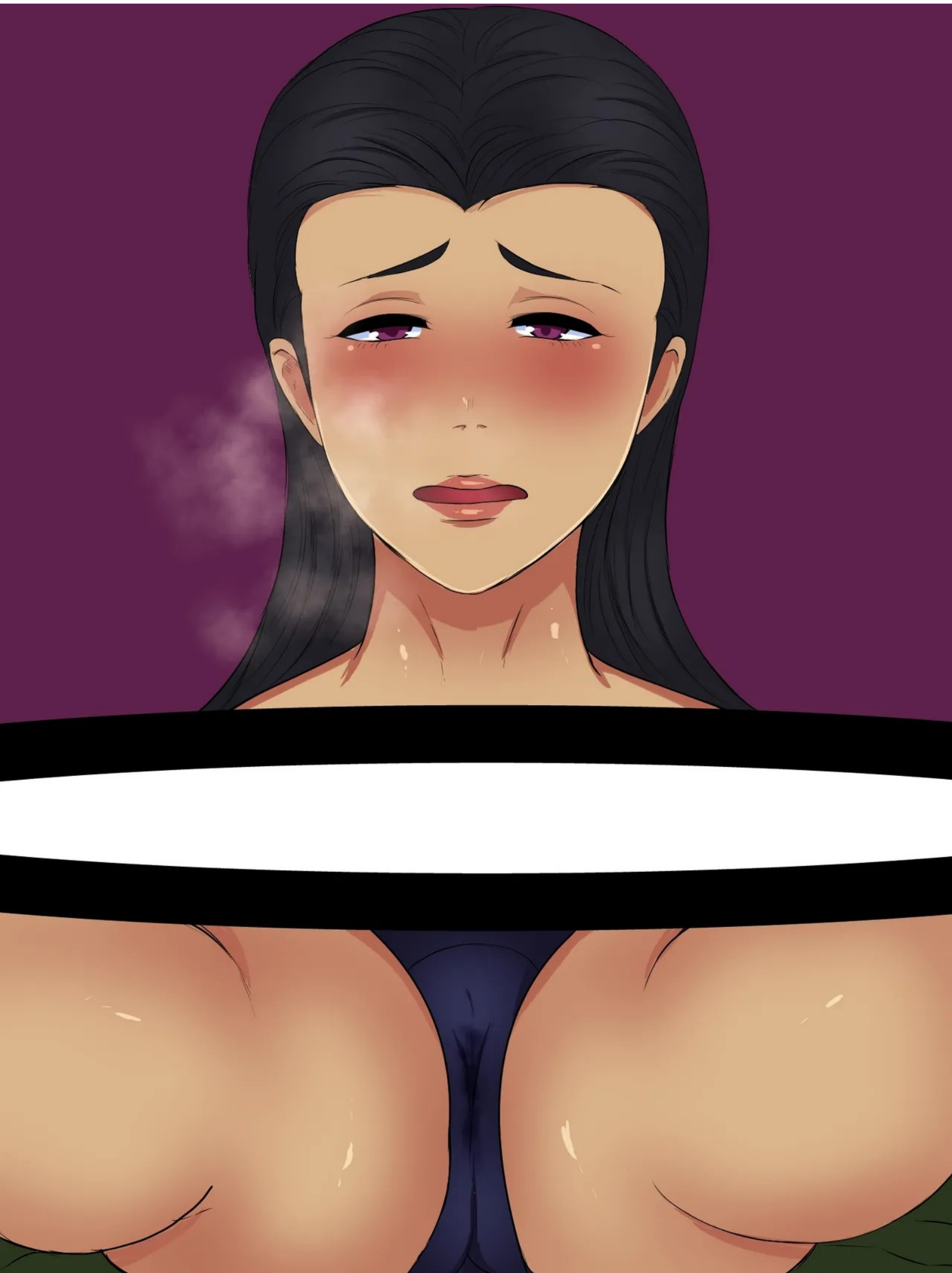


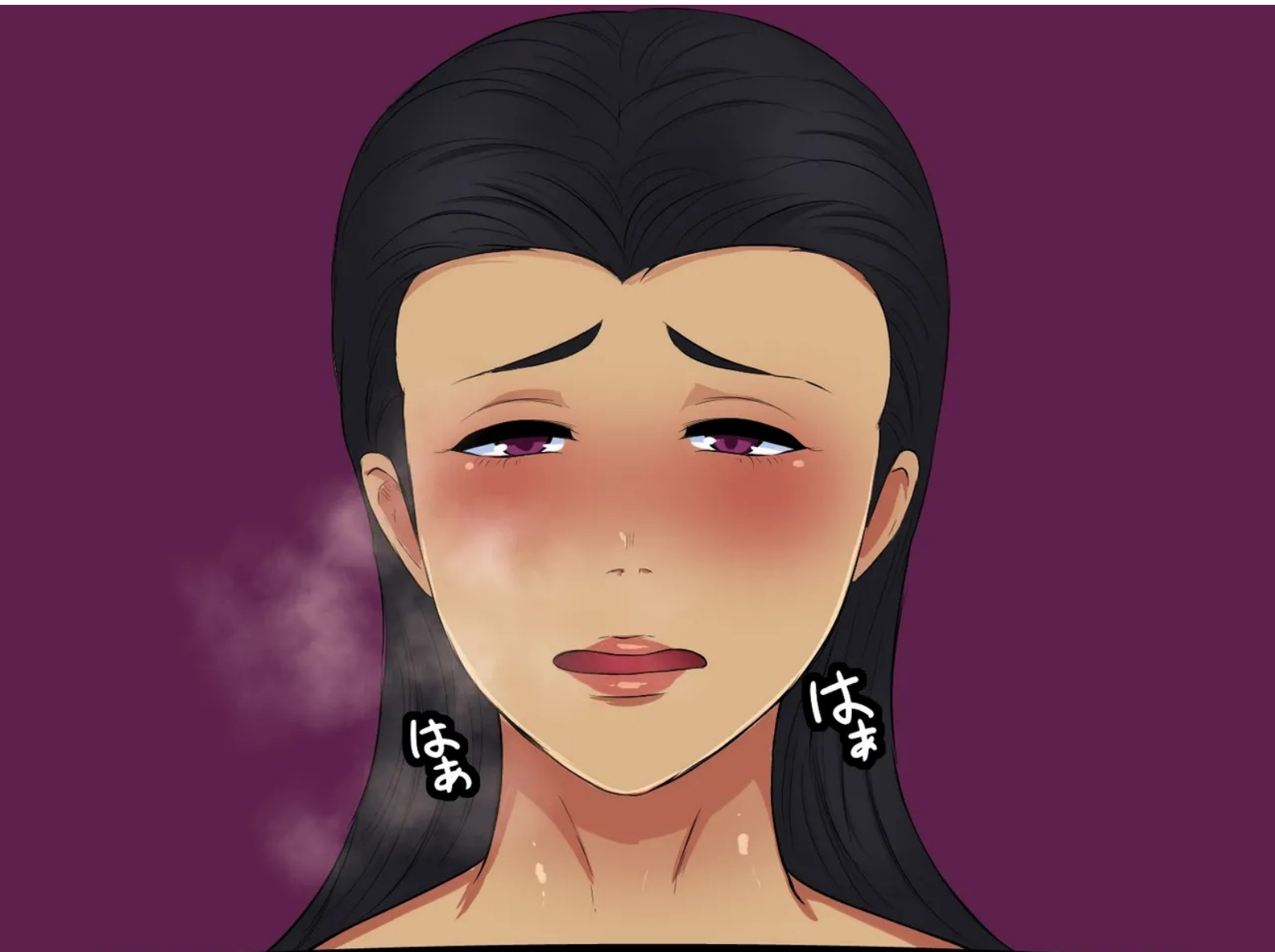




はあ

はあ











ギョウ

ギョウ













私

私

私

私

私

私

私

私

私







アッ

ギョギョギョ

ギョギョギョ





?

OT

OT







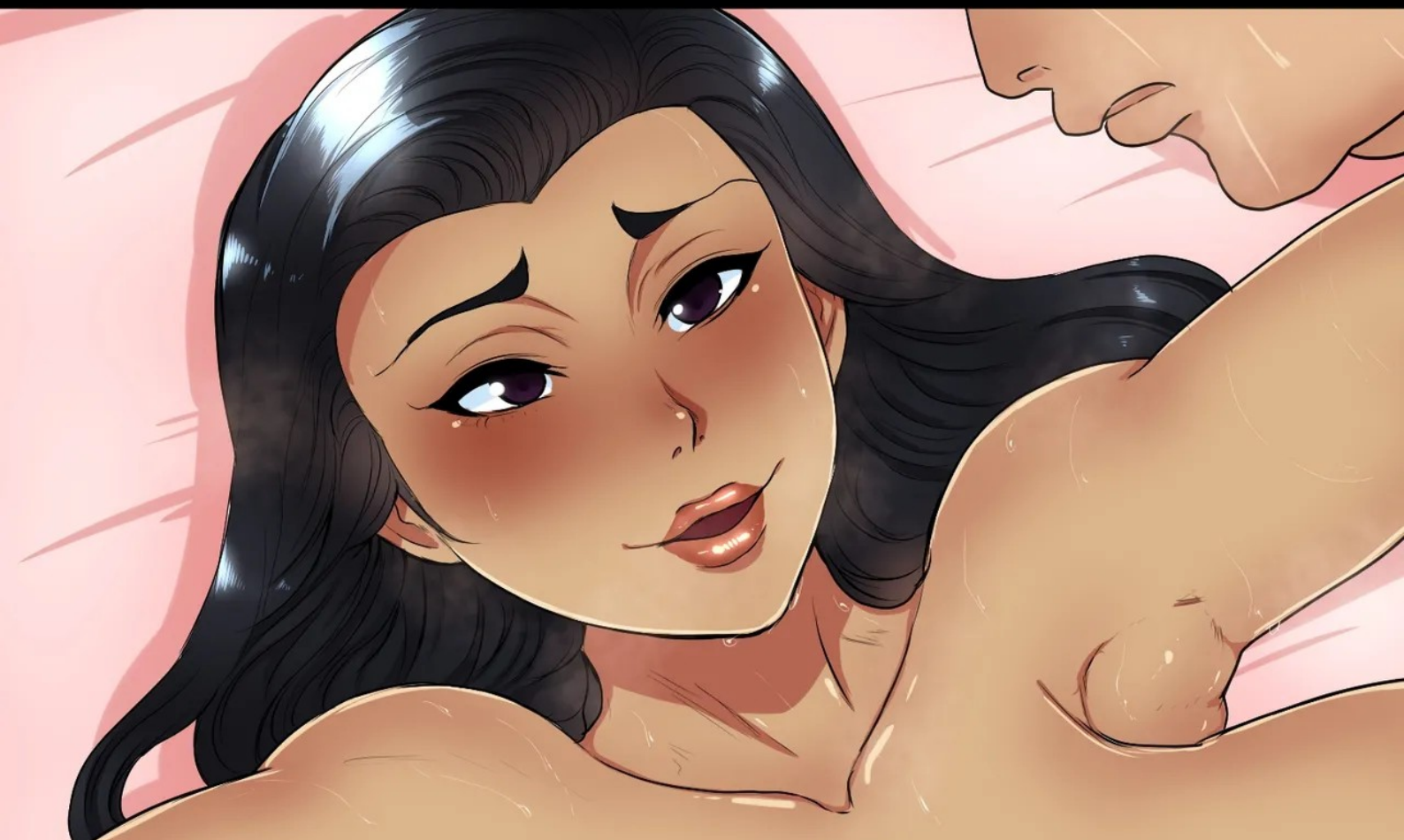


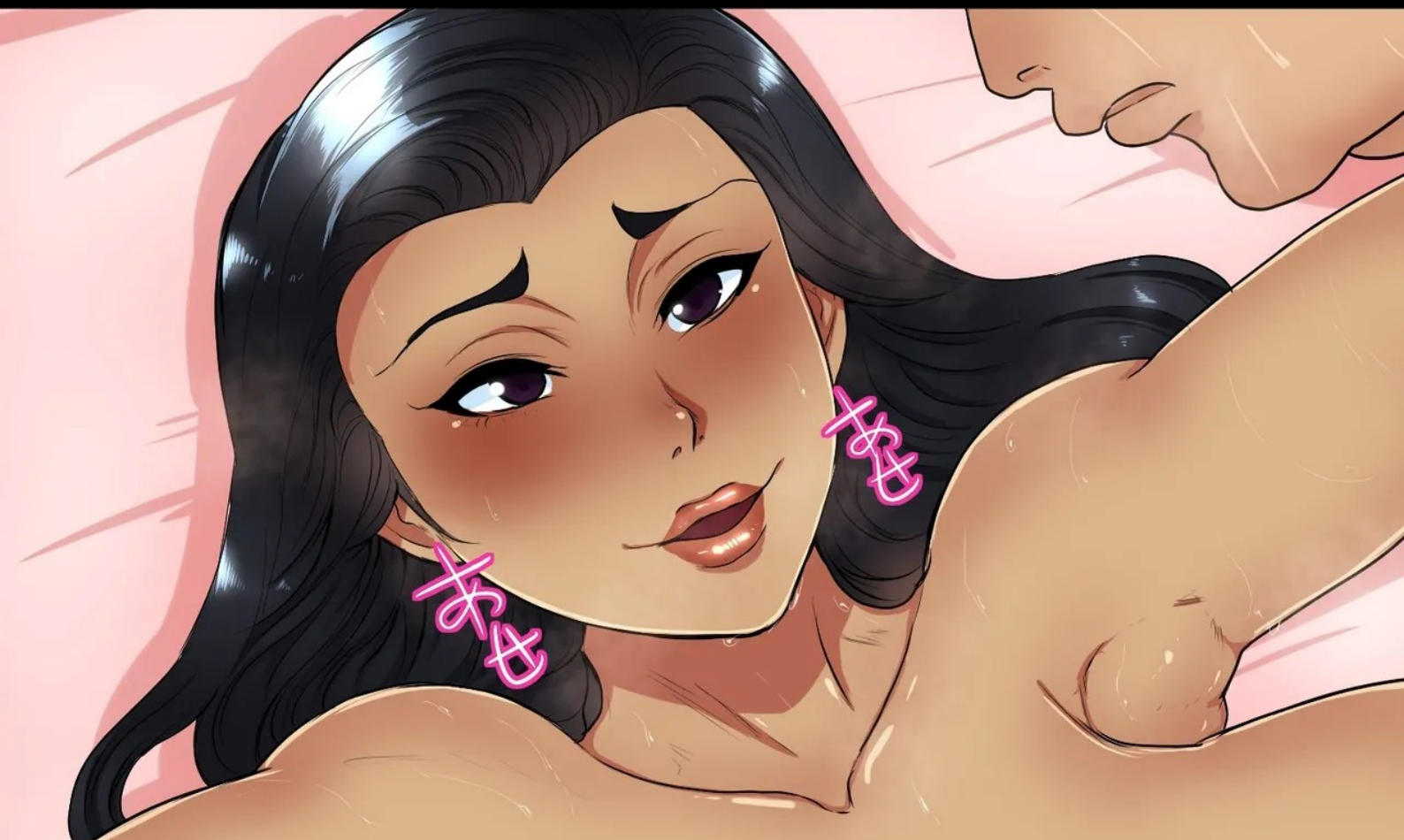




あ...ま...ま...♡

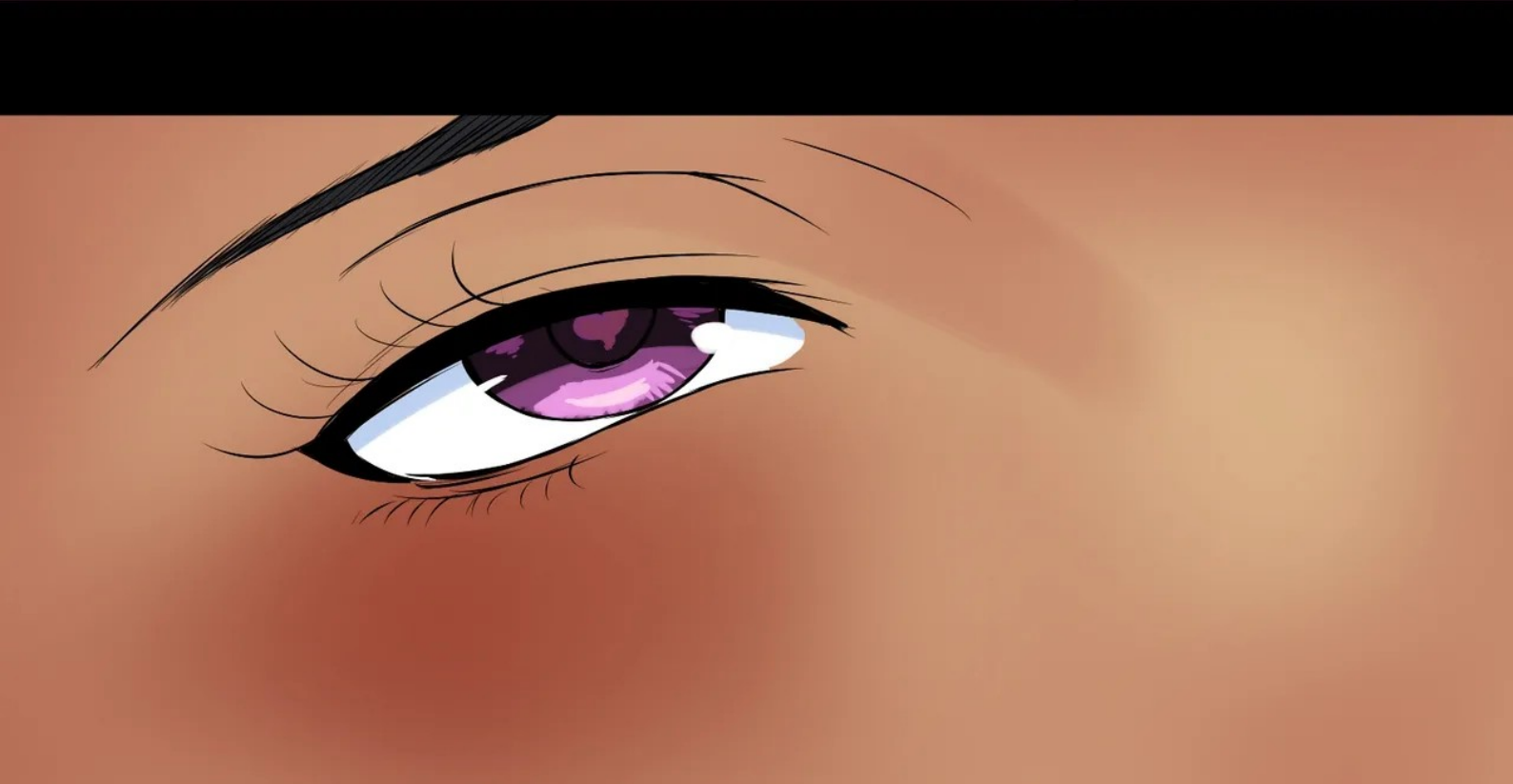
だ...!!

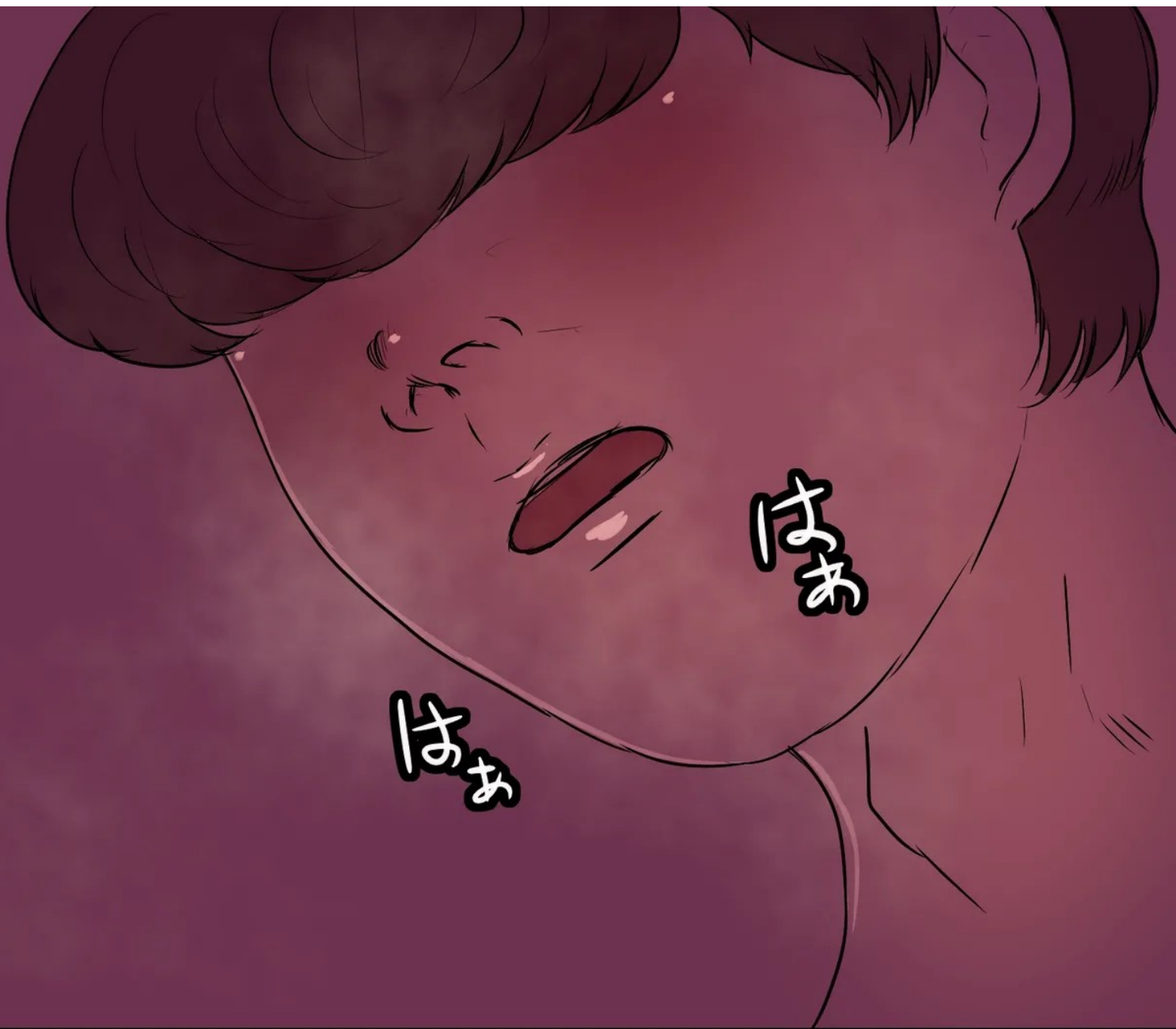








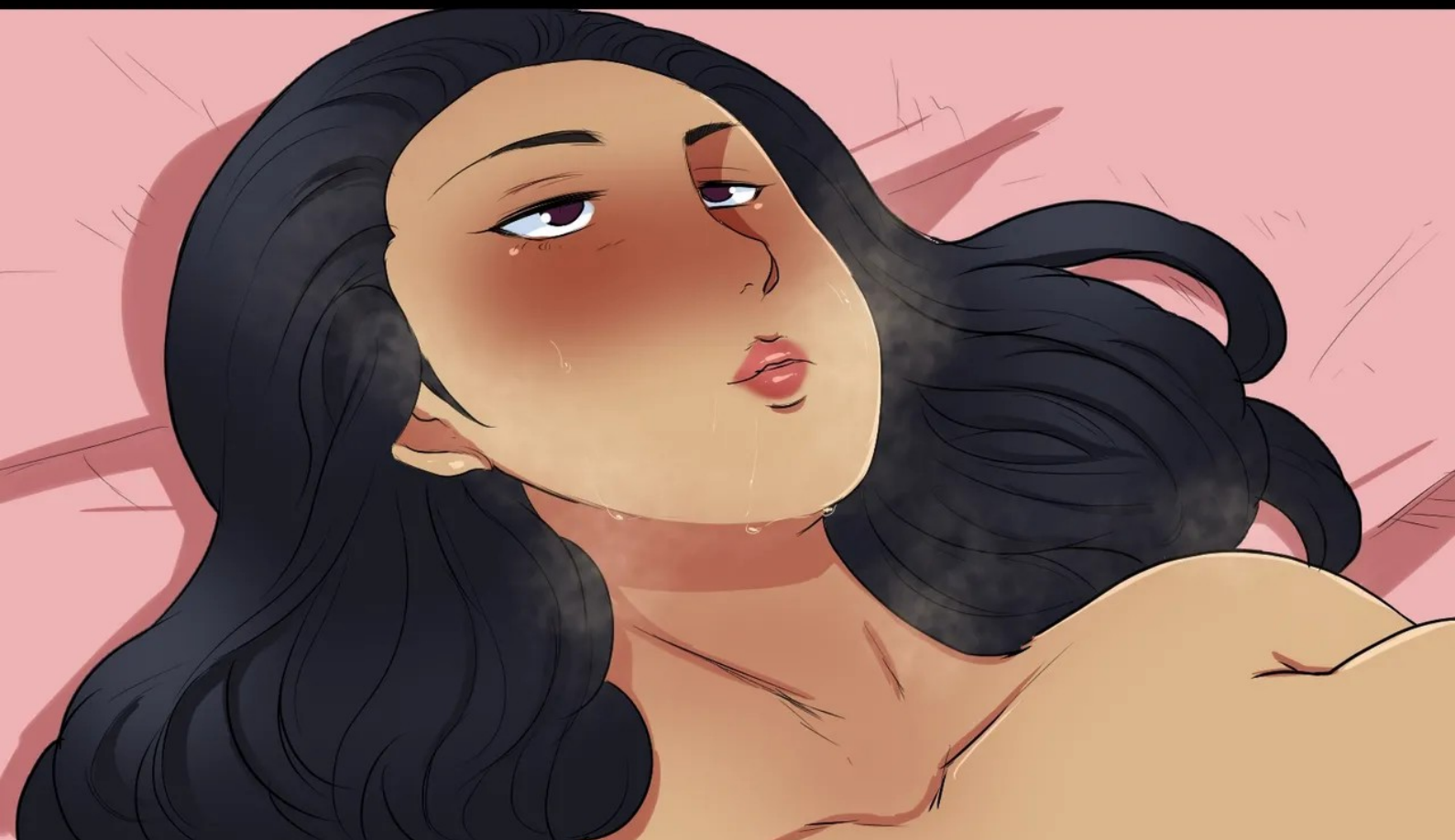










































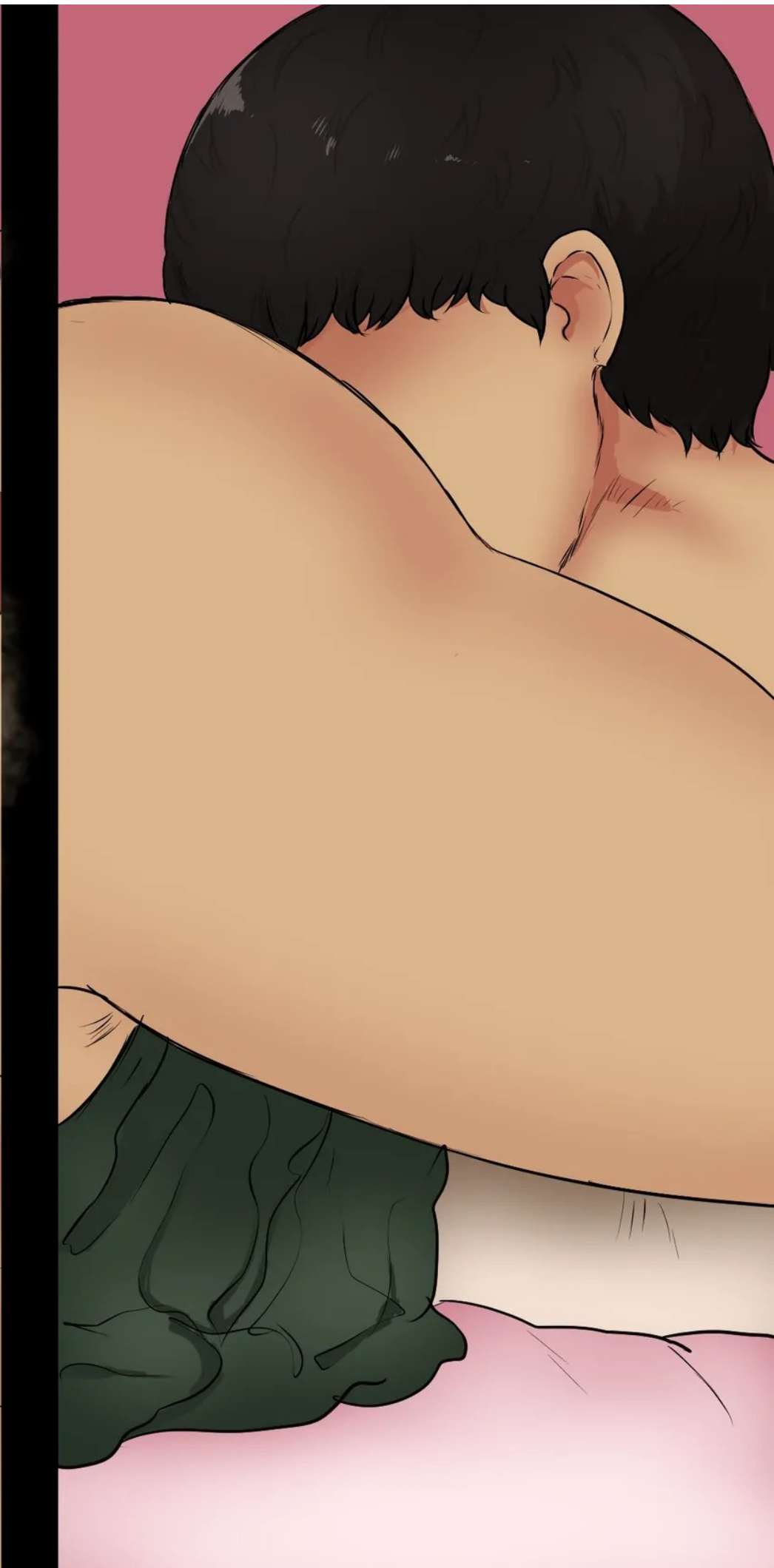


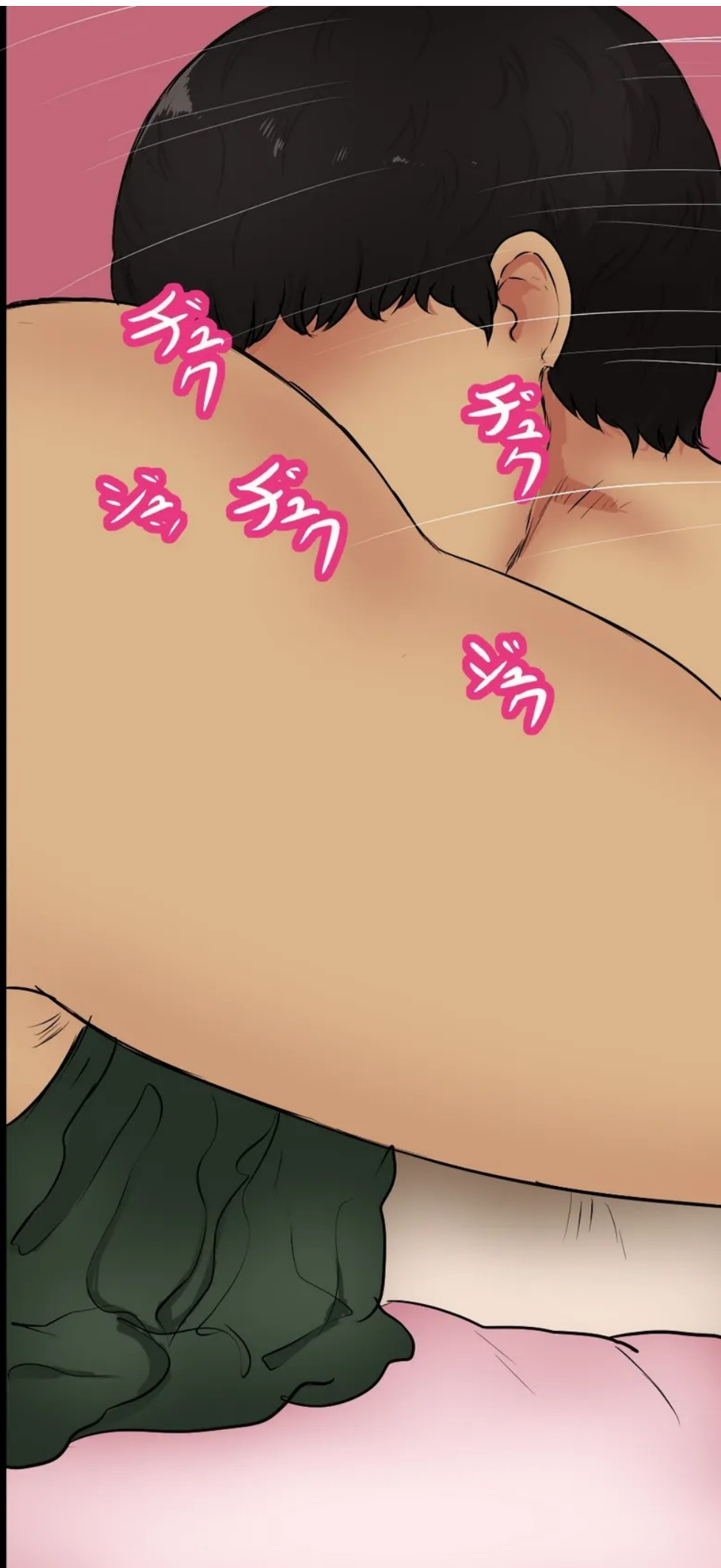


ク
ン
パ
ア
ア











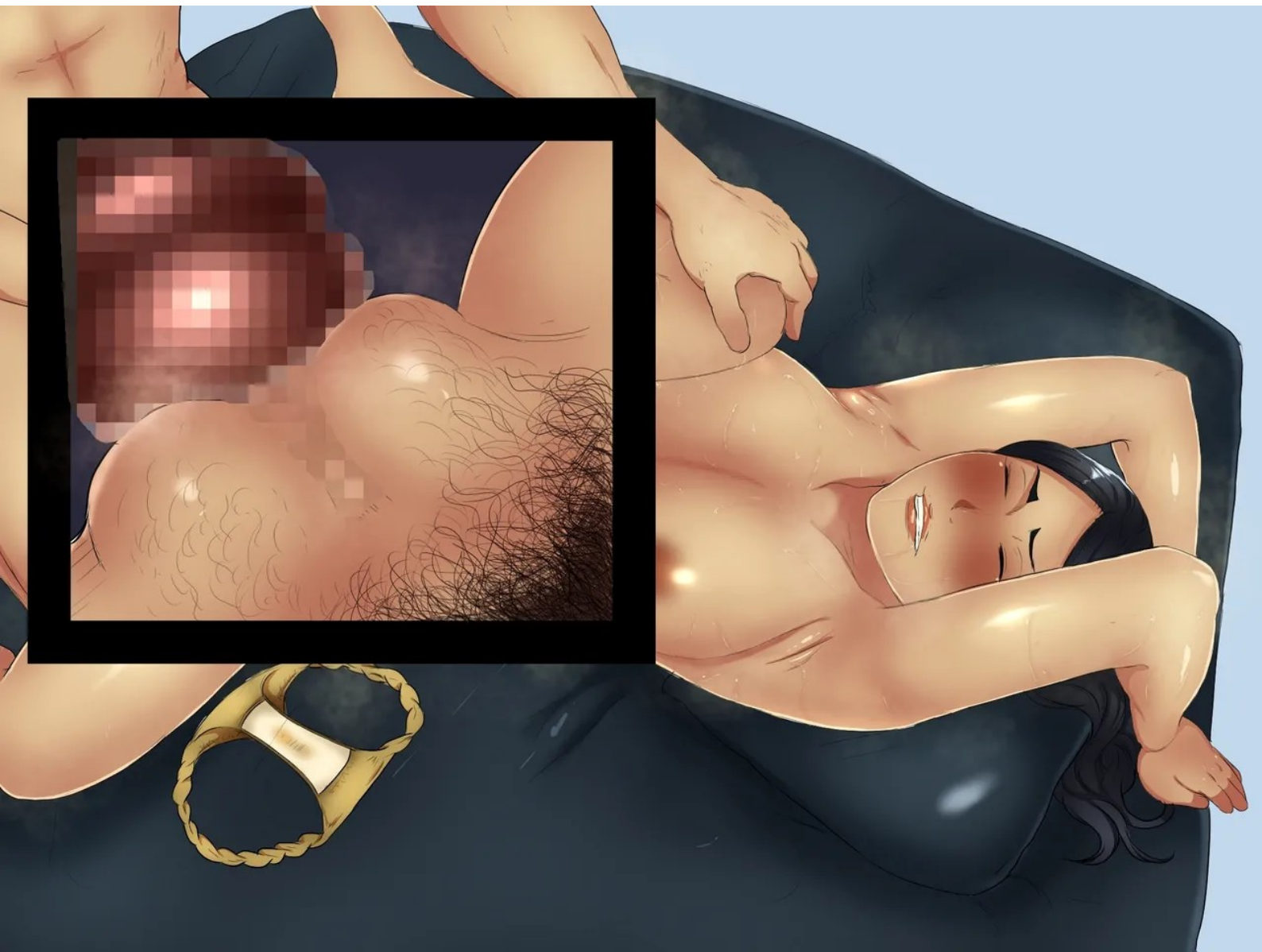


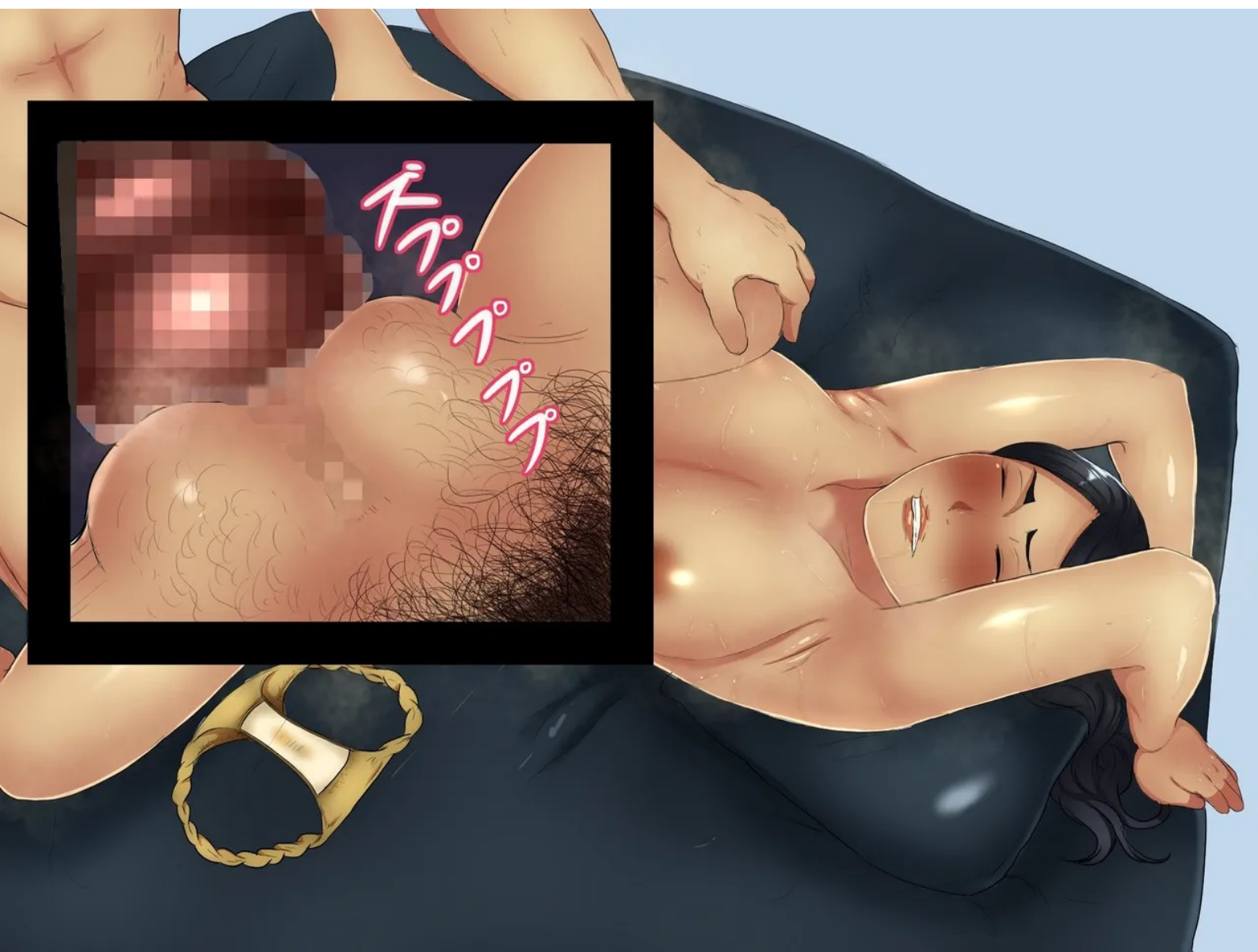












フワフワフワフワ





